

283

16



* 0051269001 *

0051269-001

283-16

第六高等学校一覽

第六高等学校・編

第六高等学校

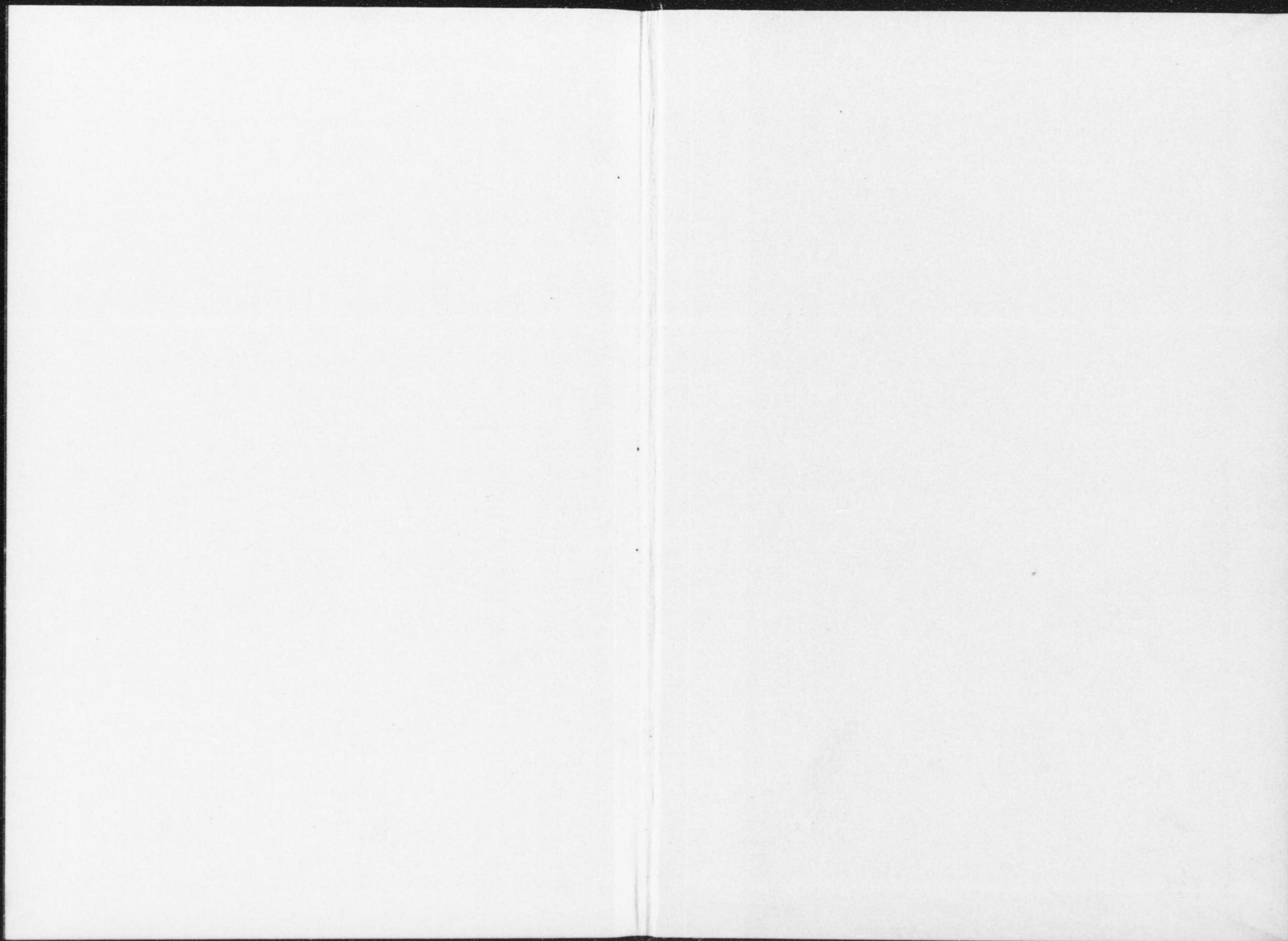
昭和2至3年—昭和6至7年, 昭和8至9年
—昭和10至11年

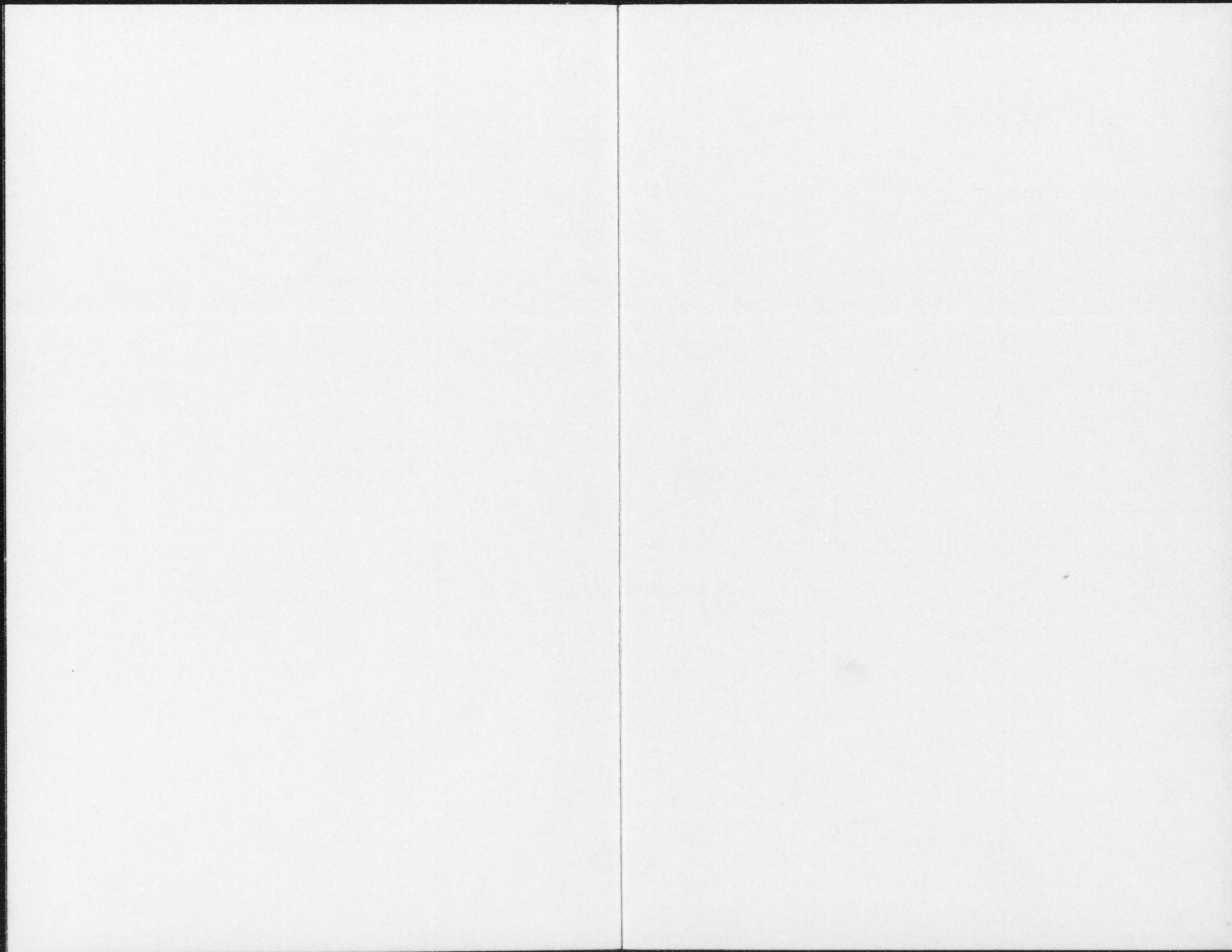
昭和2—10

AHM

283

16





工 5J 96

283
冊庫
16

第六高等學校一覽

自昭和二年
至昭和三年



生徒心得

忠孝
信義
ルコト
志操
質素
規律
ルコト

我ヲ明ニシ愛國ノ精神ヲ發揮スベキコト
廉恥ヲ尙ビ輕佻浮薄ノ舉動アルベカラザ
シ學業ヲ勵ミ身體ヲ健全ニスベキ
旨トシ言行一致ヲ期シ忍耐ノ氣風ヲ養フ

規律ヲ守リ禮讓ヲ重ジ暴慢放肆ノ行爲アルベカラザ
ルコト





第六高等學校一覽

目次

【一】	學年曆	一
【二】	沿革略	四
【三】	關係諸法令	
一	文部省直轄諸學校官制(抄)	一八
二	文部省直轄諸學校職員定員令(抄)	一九
三	高等學校令	二〇
四	高等學校規程	二五
五	官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程	五一
六	他ノ學校ノ入學試驗ヲ受クルノ件	五四
七	陸軍現役將校學校配屬令	五四

目次

【四】學則

第一章 總則	五六
第二章 學科	五六
第三章 學年學期及休業	五七
第四章 入學及在學	五八
第五章 進級及卒業	六〇
第六章 休學	六一
第七章 退學及除名	六二
第八章 懲戒	六四
第九章 授業料	六四
第十章 生徒寮規程書式	六六
	六九

【五】細則

第一章 授業規程	七四
第二章 生徒心得	七六
第三章 生徒集會規程	七七
第四章 學業成績考查細則	七八
第五章 通學生徒規程	八一
第六章 監督教官規程	八二
第七章 級長及副級長規程	八三
第八章 評議員規程	八三
第九章 教授會規程	八四
第十章 服裝規程	八五
第十一章 圖書閱覽室規程	八九

【六】 掌務細則

第一節 校務分掌規程

第二節 事務員服務規程

第一 事務員

第二 當直

【七】 職員姓名

【八】 生徒姓名

【九】 卒業生姓名

【十】 卒業生徒數調

【十一】 生徒府縣別人員

【十二】 敷地及建物

【十三】 學校圖

九二

一〇〇

一〇〇

一〇三

一〇三

一五四

二七一

二七四

二七九

第六高等學校一覽

學年曆

自昭和三年
至同三年

第一學期

昭和二年四月十三日

四月十七日

四月十九日

四月二十九日

七月十四日

七月十五日

第一學期授業始

宣 誓 式

本校記念日

天長節拜賀式

第一學期授業終

夏期休業始



學年曆

第二學期

九月六日

第二學期授業始

秋季皇靈祭秋分日

休業

十月十七日(神嘗祭)

休業

十一月三日(明治節)

休業

十一月二十三日(新嘗祭)

休業

十二月二十四日

第二學期授業終

十二月二十五日

冬期休業始

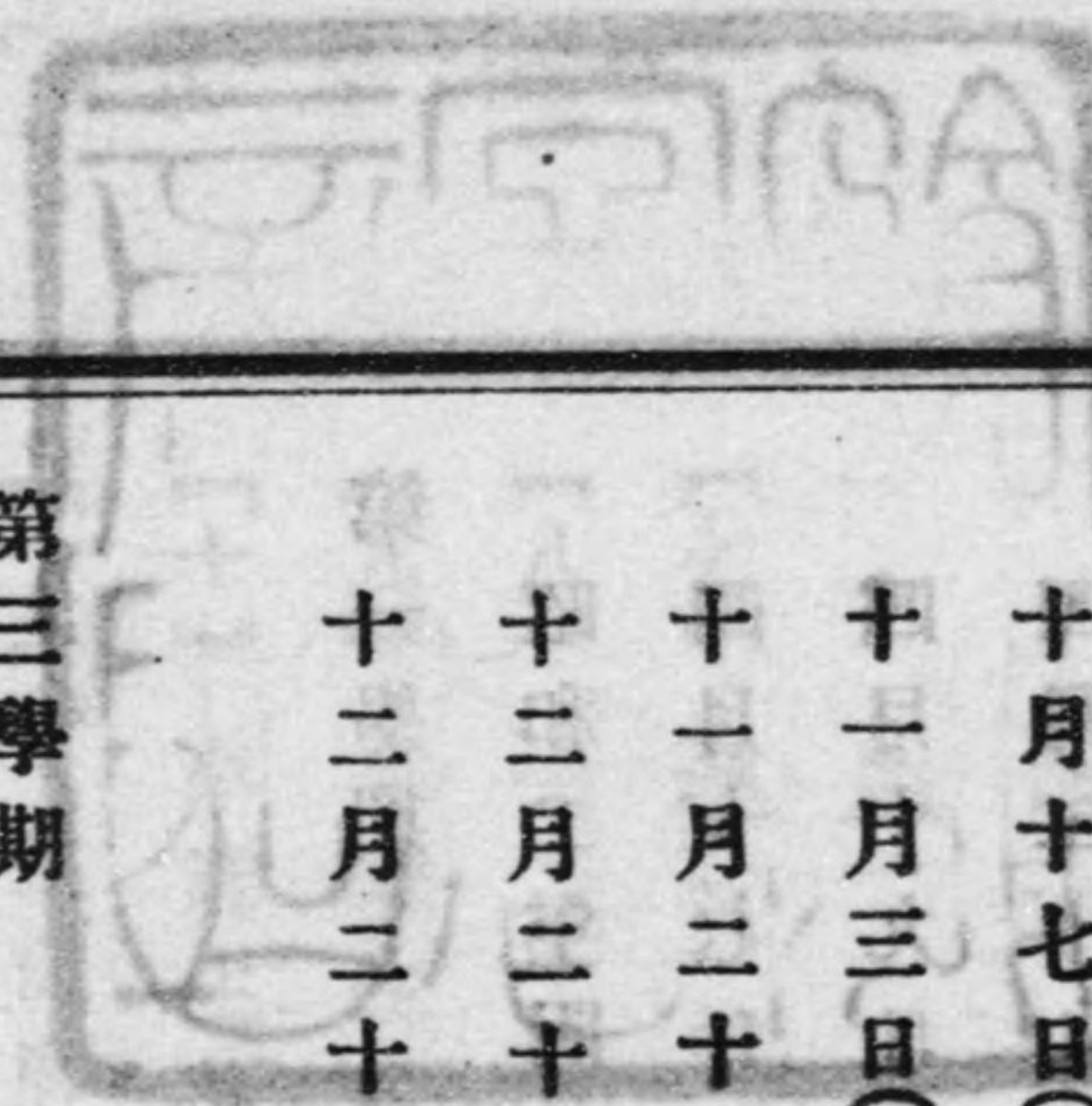
第三學期

昭和三年一月八日

第三學期授業始

二月十一日(紀元節)

紀元節拜賀式



三月十五日 第三學期授業終

三月十六日 春季休業始

二、沿革略

明治三十三年

三月二十九日勅令第八十四號ニヨリ本校ヲ設置セラレ同日勅令第八十六號ヲ以テ職員ノ員數ヲ校長一人教授七人助教授四人書記四人ト定メラル 四月十三日第三高等學校教授酒井佐保學校長ニ任ゼラル 四月十九日文部省告示第二百一十一號ヲ以テ本校ノ位置ヲ岡山縣岡山市大字門田字山手屋敷及大字國富字田中ト定メラレ假事務所ヲ文部省内ニ置ク同日文部省令第七號ヲ以テ本校ニ大學豫科ヲ設置セラル 五月三十一日假ニ本校學則ヲ定メ大學豫科各部第一年級生徒ヲ募集ス 六月十九日文部省內假事務所ヲ岡山市大字國富少林寺ニ移ス

七月六日入學試驗臨時委員ヲ第三高等學校職員ニ囑託シ第三高等學校ニ於テ入學試驗ヲ施行ス 八月十五日入學試驗合格者ヲ悉ク各部第一年級ニ編入ス本校カ生徒ヲ收容シタル始メトス同時ニ生徒ノ服制及徽章竝生徒ノ番號ヲ定ム 同日校務分掌規程ヲ定メ教務、庶務、庶務、會計、文庫ノ五課ヲ設ケ主幹及各課主任ヲ置ク又事務員服務細則ヲ定ム 九月六日小橋町國清寺ヲ假生徒寮ニ充テ全校生徒ヲ悉ク之ニ收容ス同日事務所ヲ本校内ニ移ス此日曩ニ本校ニ下賜セラレタル兩陛下及皇太子殿下ノ御眞影竝教育ニ關スル勅語ノ贍本ヲ拜戴ス 十一、十二ノ兩日入學生徒ノ引見式ヲ又十三日ニ宣誓式ヲ行フ爾後定例トナス 十五日開校式ヲ舉行ス 十六日地方公衆ニ校舍ノ縱覽ヲ許ス 十八日始メテ各學科ノ授業ニ就ク 十月二日從來ノ假學則ヲ改メ更ニ校則ヲ定ム其ノ他擔任教官竝級長副級長等ノ制ヲ定ム

明治三十四年

一月八日 御親署ノ勅語ヲ拜戴ス 三月三十一日勅令第二十五號ニヨリ本校教授十三人助教五人書記五人ト定メラル 九日生徒寮規則ヲ定ム 十日寄宿舎新築落成シ新ニ生徒寮ヲ開キ國清寺ニ設ケタル假生徒寮ヲ廢ス 八月二十五日授業料額一學年貳拾圓ナリシヲ貳拾五圓ト改メ明治三十四年九月以後ノ入學者ニ對シ實施スルコトトス 九月三日博物學化學物理學ノ各特別教室ノ新築落成ス

明治三十五年

一月書庫竝圖書閱覽室竣工シ茲ニ工事ニ關スル既定事業完成ス 三月二十七日勅令第九十九號ヲ以テ本校教授定員二十二助教同五人書記同六人ト定メラル 四月二十五日文部省告示第八十二號高等學校大學豫科入學試驗規程發布セラレ從來高等學校ガ各自ニ施行シ

タリシ生徒ノ入學試驗ハ茲ニ文部本省ノ事務ニ移ル 九月十一日市内虎列拉病流行ニヨリ開校ヲ延期シ同月二十一日迄授業ヲ閉止ス 此ノ月二年級以上ノ生徒ニ市内散宿ヲ許シ同時ニ生徒番號ヲ廢ス

明治三十六年

三月七日生徒寮規程中在寮日數ニ拘ラス當月全額ノ寮費ヲ徵收スルノ規定ヲ改メ十五日以前ニ退寮シ又ハ十六日以後ニ入寮シタル者ニ對シテハ半額トナスコトニ定メタリ 六月十九日勅令第三百三號ヲ以テ本校教授定員二十三人助教定員六人ニ改メラル 六月三十日生徒六十名ヲ卒業セシム之ヲ以テ生徒卒業ノ始メトス

明治三十七年

十一月三十日文庫規程ヲ改正シ器械標本類ノ出納保管ノ任ヲ文庫課ノ管掌ヨリ除ク

明治三十八年

二月授業料ヲ一學年金參拾圓ニ改ム同時ニ在學證書ノ樣式等ニツキ規則中改正アリ 九月十一日生徒取締ヲ置キ其ノ掌務規定ヲ定ム

明治三十九年

三月二十九日勅令第四十六號ヲ以テ本校教授定員ヲ二十四人ニ改メラル

明治四十年

六月二十八日勅令第二百四十七號ヲ以テ本校教授定員ヲ二十六人助教授七人ニ改メラル 九月規則ヲ改正シ從來ノ生徒保證人ヲ廢シ試驗制度ヲ改ム又授業ハ主トシテ教科書ヲ用フルコトトス

明治四十一年

三月十二日文部省告示第七十八號ヲ以テ入學試驗ニ關スル事務ハ再ヒ高等學校ニ於テ施行スルコトトナル 二十三日生徒控所兼雨天體

操場落成シ其ノ引渡ヲ受ク 此ノ月勅令第六十九號ヲ以テ本校教授定員ヲ二十七名ニ改メラル 九月寮費一ヶ月金七拾五錢ナリシヲ改メテ金九拾錢トス

明治四十二年

一月校務分掌規程ヲ改正シ主幹ヲ廢シ從來ノ分課ノ外更ニ生徒課ヲ増設ス又評議員規定ヲ定メ同時ニ評議員ヲ任命ス 四月勅令第八十八號ヲ以テ教授ノ定員ヲ二十八人ニ改メラル 六月十四日文部省令第十五號ヲ以テ高等學校大學豫科學科課程中地質及鑛物ヲ地質學鑛物學ト改メ林學科志望者ニ數學ヲ削リテ英語ヲ加ヘ又理農藥學志望者ニ動物及植物ノ實驗ヲ加ヘラル 八月十九日文部省令第十九號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程中第一部ノ志望類ニ改正ヲ加ヘラル 同日文部省令第十二號ヲ以テ大學豫科學科課程中第一

部丙類政治科志望者ノ外國語授業時數ヲ定メラル 九月寮費金壹圓拾錢ニ改ム

明治四十三年

三月勅令第六十七號文部省直轄諸學校職員定員令ノ改正ニヨリ本校助教授ノ定員ヲ二名ニ改メラル 四月二十一日文部省令第九號ヲ以テ農科大學志望者ニ數學ヲ除カル 五月文部省令第十一號ヲ以テ入學者選抜試験無試験檢定規程定メラル 十一月一日文部省令第二十六號ヲ以テ大學豫科學科課程中倫理ヲ修身ニ改メ同時ニ同科ノ授業時數ヲ増加セラル 十六日 御沙汰ニヨリ恒久王殿下台臨アラセラ

明治四十四年

一 中學校長金子銓太郎學校長ニ任ゼラル

一月二十三日各部第一一年級及第二一年級ニ修身科ノ授業ヲ開始ス 四月二十六日文部省令第二十一號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選抜試験無試験檢定規程中推薦學校ノ種類ヲ加ヘラル 七月三十一日勅令第二百十七號ヲ以テ高等中學校令發布セラレ高等學校令廢止セラ

ル但本令ハ明治四十六年四月一日ヨリ施行セララルモノニシテ高等學校大學豫科ハ其ノ際現ニ在學スル者ノ爲ニ明治四十八年八月三十一日迄存置セラル 同日文部省令第二十五號ヲ以テ高等中學校規程發布セララル 九月一日授業料額ヲ一學年金參拾五圓ニ改ム 四日校長室教官室事務室及食堂ノ位置ヲ變更ス

明治四十五年

七月一日集會所ノ新築落成シ引渡ヲ受ク

七月三十日 明治天皇崩御即日 大正天皇踐祚元號ヲ大正ト改メラル

大正二年

二月二十六日 圖書特別教室一棟増築竣工シ其ノ引渡ヲ受ク 三月三十日勅令第十八號ヲ以テ高等中學校令ノ實施ヲ延期セラル 七月十四日規則中ヲ改正シ入學料金壹圓ヲ金參圓ニ増額ス 九月六日規則中ヲ改正シ天長節祝日ヲ休業日中ニ追加ス

大正三年

四月三十日文部省令第十八號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選抜試驗規程中修學部類ニ改正ヲ加ヘラレ理科及藥學科ヲ二部乙類トナシ農科ヲ二部丙類トナス 六月十九日勅令第二百二十四號ヲ以テ文部省直轄諸學校ノ名譽教授ニ關スル件ヲ定メラル 九月八日生徒取締規程ヲ廢ス

大正四年

六月二日校則中學業成績考查細則ニ追加シ三年級生徒ニ限リ第三學期試業ニ缺席シタル者モ認定ノ上卒業セシムルコトアルベシトノ規定ヲ設ク 十月二十一日 天皇陛下ノ御眞影ヲ拜戴ス 十二月七日勅令第二百三十六號ヲ以テ本校教授定員ヲ三十名ト改正セラル

大正五年

十月二十一日 皇后陛下竝 皇太子殿下ノ御眞影ヲ拜戴ス

大正六年

四月二十七日 文部省令第四號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選抜試驗規程ヲ改正シ各高等學校集合ノ試験制トナス 九月二十二日勅令第六十一號ヲ以テ教授定員ヲ三十二人ト定メラル 十一月二十九日校則第二章第一款ノ授業規程中生徒ノ缺席届出方ヲ改正シ尙擔任教官ヲ廢シ新ニ監督教官規程竝ニ級長副級長規程ヲ定ム

大正七年

七月十九日勅令第二百八十六號ヲ以テ教授定員ヲ三十四人ト定メラル
十二月五日勅令第三百八十九號ヲ以テ高等學校令發布セラレ明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及明治四十四年勅令第二百十七號高等中學校令廢止セララル但現在ノ高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ存置セララル

大正八年

一月八日 學校長金子銓太郎第三高等學校長ニ任ゼラレ文部省督學官丸山環學校長ニ任セララル 三月二十九日文部省令第八號ヲ以テ高等學校規程設定セララル同規程ニヨリ本令施行ノ際現ニ高等學校大學豫科ニ在學スル生徒ニシテ大正十年八月三十一日マテニ卒業セサルモノハ之ヲ高等學校高等科ノ相當學年ニ編入スト定メラレ又高等中

學校規程明治四十一年文部省令第九號高等學校大學豫科入學者無試驗檢定規程及高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程ヲ廢止セララル同日文部省令第九號ヲ以テ高等學校高等科入學資格試驗規程又文部省令第十號ヲ以テ高等學校教員規程ヲ定メララル 四月十九日文部省令第十四號ヲ以テ官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程ヲ定メララル 二十三日柔道道場落成シ其引渡ヲ受ク 九月十六日 本校々規ヲ廢シ更ニ學則ヲ定ム

大正九年

八月授業料ヲ一學年金四拾圓ト改ム 二十七日勅令第三百三十九號ヲ以テ教授定員ヲ三十六人ト定メララル

大正十年

四月學則中ヲ改正シ學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終

ルト爲シ又寮費ヲ一ヶ月金貳圓ト改ム 五月二十五日勅令第二百三十三號ヲ以テ助教授ノ定員ヲ三人ト定メラル 十一月二十六日官立高等學校高等科入學者選抜試験規程中ヲ改正シ理科丙類ヲ増設セラル

大正十一年 四月授業料ヲ一學年金五拾圓ト改メ又寮費月割ノ制ヲ改メテ年額トナス 六月十九日細則中授業規程ヲ改正ス 十一月劔道道場及弓道道場竣工シ其引渡ヲ受ク 十二月文部省所管ノ學校二箇以上ニ入學ヲ志願シタル者扱方ノ件廢止セラル

大正十三年 六月九日松江高等學校長小松倍一本校校長ニ任セラレ丸山環本校々長ヲ免セラル

大正十四年

三月二十三日授業料ニ關スル規定ヲ改正シ四月一日ヨリ授業料一學年金六拾五圓トス 四月十三日勅令第三百三十五號陸軍現役將校學校配屬令發布セラレ同日文部省訓令第六號ヲ以テ教練教授要目ヲ定メラル 十月十八日創立第二十五年紀念祝賀會施行 十一月二十五日文部省令第四十二號ヲ以テ入學者選抜試験規程中改正高等學校ヲ二班ニ分チ各班前後シテ選抜試験ヲ行ヒ入學志願者ハ他班ニ屬スル一校ヲ併セ同時ニ二校ヲ入學志望校ト指定スルコトヲ得トナセリ

大正十五年

三月四日勅令第二十五號ヲ以テ公休日改定ニ付學則中休日規定ヲ改正ス 四月二十一日細則中服裝規程兩具ニ關スル規定ヲ廢ス 五月二十三日 皇太子殿下啓アラセラル 十二月二十五日 大正天皇崩御即日 今上天皇踐祚元號ヲ昭和ト改メラル

三、關係諸法令

一、文部省直轄諸學校官制(抄)

明治二十六年八月勅令第八十六號
ヲ以テ制定セラレ爾後數次改正

第一條 文部省直轄學校ハ左ノ如シ

(中畧)

第六高等學校

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 教授 生徒監 助教授 書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ

所屬職員ヲ監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌

ル

第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ專ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サ

ル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣

ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムル

コトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設ク

ルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

二、文部省直轄諸學校職員定員令(抄)

(明治三十五年勅令第九十九號ヲ
以テ制定セラレ爾後數次改正)

第六高等學校	校	長	教	授	生	徒	監	助	教	授	書	記
	一											
					三	六	補	職				
									三			
												七

三、高等學校令

大正七年十二月五日
勅令第三百八十九號

- 第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ
特ニ國民道德ノ充實ニカムヘキモノトス
- 第二條 高等學校ハ官立公立又ハ私立トス
- 第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣ト
ス
- 第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ
因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設
立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル
資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本
財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五拾萬圓ヲ下ル

コトヲ得ス

- 基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大
臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ
- 第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受ク
ヘシ
- 第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス
高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得
- 第八條 高等學校高等科ヲ分テ文科及理科トス
- 第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコト
ヲ得其ノ修業年限ハ一年トス
- 專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得
- 專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得
第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十七條 高等學校ノ設備編制學科目及其ノ程度教科書并生徒ノ入學退學及懲戒授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲

ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除
 ク外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘ
 キ文字ヲ用フルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止
 ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス
 前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス
 高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

四、高等學校規程 (大正八年三月二十九日 文部省令第八號)

第一章 學科課程及教科書

第一節 尋常科

第一條 尋常科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、外國語、歷史、地理、數學、博物、
 物理及化學、圖畫、唱歌、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學 科 目	學 年			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修 身	一	一	一	一
國 語 及 漢 文	八	八	六	六
外 國 語	六	七	七	七

計	體操	唱歌	圖書	物理及化學	博物	數學	地理	歷史
三三	五	一	一		二	四	三	
三三	五	一	一		二	四	三	
三三	五		一	二	二	五	三	
三三	五		一	四	二	四	三	

體操ハ前表ノ教授時數ヲ適宜増加シテ之ヲ課スルコトヲ得
 第三條 中學校ノ學科目ノ程度ニ關スル中學校令施行規則ノ規程ハ尋常科ニ關シ之ヲ準用ス

第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス
 高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理化學、植物及動物、礦物及地質、心理法制及經濟、圖書、體操トス
 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス
 第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス
 修身ハ道德ノ要領ヲ授ク國家、社會、家族ニ對スル責務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハス
 ノ能力ヲ得シメ智徳ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス
 國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ
 上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文
 學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ
 理科ニアリテハ近世及近古ノ國文竝普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟
 セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表
 ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智徳ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス
 外國語ハ發音綴字讀方譯解話方作文書取及文法ヲ授クヘシ
 第八條 歷史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰文化ノ發
 達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來國體ノ特異ナル所以ヲ明ニ

シ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス
 歷史ハ日本歷史東洋歷史及西洋歷史ヲ授クヘシ
 第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現狀ヲ知ラシムルヲ以テ要
 旨トス
 地理ハ我國及諸外國ノ政治經濟等ニ關スル地理上ノ知識ヲ授クヘ
 シ
 第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル知識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セ
 シムルヲ以テ要旨トス
 哲學概説ハ東洋及西洋ノ哲學宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ
 第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル知識ヲ得シメ思考ヲ鍛鍊セシ
 ムルヲ以テ要旨トス
 心理及論理ハ各種ノ精神作用思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授ク

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

第十五條 植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル知識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

第十七條 圖畫ハ形體ヲ正確且自由ニ書クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練

リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス、
 圖書ハ自在畫平面幾何畫立體幾何畫ヲ授クヘシ
 第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト
 規律ヲ守リ協同ヲ尙スノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス
 體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道及柔道ヲ加フルコトヲ得
 第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ
 依ルヘシ

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
歷史	三	五	四
地理	二		
哲學概說			三
心理及論理		二	二
法制及經濟		二	二
數學	三		
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	二九 (三三)	二九 (三三)	二八 (三三)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語ト
 ス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シ

△此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		二	一〇	一〇
第二外國語		(三)	(三)	(三)
計		(三) 三二 (四)	(三) 三二 (四)	(三) 三〇 (三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身		一	一	一
國語及漢文		四	二	
第一外國語		八	六	六
第二外國語		(四)	(四)	(四)
數學		四	四	(四) 四
物理			三	實講 義驗 二 三 五
化學			三	實講 義驗 二 三 五
植物及動物		二	二	實講 義驗 二 二 四
礦物及地質		二		
心理			二	
法制及經濟		二		
圖書		二	二	(三)

第三學年ノ數學(二)及圖畫(二)ト第三學年ノ植物及動物(講義二實驗二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス
 第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		二〇	九	九
第二外國語		(三)	(三)	(三)
計		(三〇) (三三)	(三一) (三四)	(三二) (三四)
體操		三	三	三
計		(三六) (三三)	(二六) (三三)	(二六) (三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第三節 專攻科

第二十一條 專攻科ノ學科目ハ左ノ學科目中ヨリ便宜選擇シテ之ヲ定ムヘシ

國語、漢文、支那時文、外國語、史學、哲學、倫理學、社會學、法律學、政治學、經濟學、數學、物理學、化學、植物學、動物學、礦物學、地質學、天文學、氣象學、應用化學、機械工學、實業ニ關スル科目等

第四節 教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ旨趣ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於

テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス
各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ
補益センコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ
定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教
科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ要セス

第二章 學年教授日數及式日

第二十四條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九
月一日ヨリ翌年八月三十一日マテト爲スコトヲ得

第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上高

等科ニ在リテハ每學年二百日以上專攻科ニ在リテハ百九十日以上
トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタ
ル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキ
ハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 紀元節天長節祝日及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參
集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十八條 尋常科ニ於テ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教
授スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ中學校ニ關スル規定ヲ準用ス

高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ教授スル場合ヲ除ク、外文
部大臣ノ認可ヲ受ケ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授ス
ルコトヲ得

第二十九條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ教員數竝專任教員及兼任教
員ノ割合ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第三十條 公立又ハ私立ノ高等學校高等科ニ於テ劍道又ハ柔道ノ教
授ヲ擔任スル教員ハ前條ノ定數外トス

第四章 設備

第三十一條 高等學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛
生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舍ニハ教室、事務室、其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械
室、標本室等ヲ備フヘシ

校舍ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本模型等トス

第三十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表
簿ヲ備フヘシ

一、學則、日課表及教科用圖書配當表

二、職員ノ名簿及履歷書竝擔任學科目及時間表

三、生徒學籍簿、出席簿、身體檢查ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵

豫猶ニ關スル書類

四、試驗ノ問題答案及成績表

五、資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書機械、器具

標本模型ノ目錄

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第五章 設立及廢止

第三十六條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ設立ニ付認可ヲ受ケントス

第三十七條

第三十八條

第三十九條

五 學位位置及校地

第六十條 校舍ノ圖面及建設ノ設計

七 開校ノ期日

第八條 經費及維持ノ方法

前項第五號ニ關シテハ校地ノ地質及面積並附近ノ情況ヲ記載シタ

ル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添付スヘシ

第一項各號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ廢止ニ付認可ヲ受ケントス

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内

第三十九條 當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ尋常科ニ入學セシムヘシ

第四十條 他ノ高等學校又ハ中學校ノ豫科ヲ修了シタル者及高等學校ニ於テ國語、算術、日本歴史、地理理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ行フ試験ニ合格シタル者ハ尋常科ノ入學ニ關シ尋常小學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數尋常科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ尋常小學校卒業ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選抜スヘシ

第四十一條 尋常科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上

ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リテ之ヲ檢定スヘシ

第四十二條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ高等科ニ入學セシムヘシ

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者

二 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者

三 專門學校入學者檢定規定ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

五 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト

同等以上ノ學力アリト指定シタル者
前項ノ資格試験ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム
第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者
ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ中學校第
四學年修了ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ無
試験檢定ヲ行ヒテ入學者ヲ定ムルコトヲ得
第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ體格検査ヲ行ヒ
之ニ合格シタル者ニ限り入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科
ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテ
ハ此ノ限ニ在ラス
第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ
入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上

ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試
験ニ依リ之ヲ檢定スヘシ
第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリニ
年以内ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル時ハ同一學年以下ノ學
年ニ限り入學ヲ許可スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル高等學校ニ再入學ヲ志願シタル
者ニ限り試験ニ依ラサルコトヲ得
第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者
アルトキハ其關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得
第四十九條 高等學校尋常科ト中學校トノ相當學年相互ノ間ニ於テ
ハ前條ノ規程ニ準シ轉學ヲ許可スルコトヲ得

第五十條 高等學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試験ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ專攻科ヲ卒リタル者ニハ得業證書ヲ尋常科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可シヘス

第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 其性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 豫科

第五十七條 高等學校ノ豫科ニ關シテハ中學校ノ豫科ニ關スル中學

校令施行規則ノ規定ヲ準用ス

第八章 雜則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一 學年、學期及休業日ニ關スル事項

二 學科課程教授時數ニ關スル事項

三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五 授業料、入學料等ニ關スル事項

第五十九條 私立ノ高等學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地

方長官ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ高等學校大學豫科ニ在學スル生徒ニシテ大正十年八月三十一日マテニ卒業セサルヘキモノハ之ヲ高等學校高等科ノ相當學年ニ編入ス

高等中學校規程、明治四十一年文部省令第九號高等學校大學豫科入學者無試驗檢定規程及高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程ハ之ヲ廢止ス

五、官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程(大正八年四月十九日 文部省令一四號)

第一條 入學志願者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルト

キハ選拔試驗ヲ行フ

第二條 各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ概數選拔試驗ニ關スル

細目及出願ノ手續ハ其ノ都度文部大臣之ヲ告示ス
 第三條 選抜試験ノ學科目ハ中學校第四學年マテノ必修學科目中ニ
 就キ之ヲ選定ス但シ外國語ハ英語、獨語及佛語ノ中本人ヲシテ其ノ
 一ヲ選ハシム

前項ノ試験ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル

第四條 選抜試験ハ高等學校ヲ二班ニ分チ各班前後シテ之ヲ行フ

第五條 入學志願者ハ志望校トシテ一校ヲ指定シ又ハ他班ニ屬スル

一校ヲ併セ二校ヲ指定スルコトヲ得二校ヲ指定スル場合ニ於テハ

其ノ志望ノ順位ヲ定ムヘシ

第六條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科及類ヲ指定スヘシ

但シ志望學校二校ノ場合ニ於テハ各異ナル科ヲ指定スルコトヲ得

ス

指定スヘキ科及類ハ左ノ如シ

文科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ

文科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

文科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ

理科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ

理科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

理科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ

選抜試験ノ外國語ニ英語ヲ選フ者ハ志望ノ類二箇以上(同一科内ノ
 類ニ限ル)ヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類
 ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理
 科乙類ニ限リ佛語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科丙類又ハ理科丙
 類ニ限ル

六、文部省直轄諸學校生徒他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試験
ヲ受クルノ件(明治三十八年
文部省令第十八號)

文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部
省直轄諸學校ノ入學試験ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試験ハ無効トス

七、陸軍現役將校學校配屬令(抄)(大正十四年四月
勅令一三五號)

第一條(前略)高等學校(中略)ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲陸
軍現役將校ヲ當該學校ニ配屬ス但シ戰時事變ノ際其ノ他己ムヲ得
サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ニ依ル將校ノ配屬ハ陸軍大臣文部大臣ト協議シテ之ヲ
行フ

配屬將校ハ教練ニ關シテハ當該學校長ノ指揮監督ヲ承ク

第四條 陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ本令ニ依リテ將校ヲ配屬シタル
學校ニ於ケル教練實施ノ狀況ヲ查閱セシムルコトヲ得

第一章 總則
第一條 陸軍現役將校學校配屬令
第二條 陸軍現役將校學校配屬令ノ施行細則ハ陸軍大臣文部大臣
ノ協議ニ依リテ之ヲ制定ス

四、學

四、學則

第一章 總則

本校ハ大正七年勅令第三百八十九號ニ基キ同八年文部省令第八號ニヨリ高等學校高等科ヲ置ク

第二章 學科

第一條 本校ノ學科ハ大正八年文部省令第八號所定ノ文科及理科トス

第二條 前條各科ノ學科目中外國語ハ英語及獨語トス

第三章 學年學期及休業

第一條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條 學年ヲ分チテ三學期トス
第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日マテ
第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日マテ

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ

第三條 休業日左ノ如シ
日曜日 十一月二十三日

紀元節 二月十一日
春季休業 三月十六日ヨリ四月十二日マテ

本校紀念日 四月十九日
天長節 四月二十九日

夏季休業

七月十五日ヨリ九月五日マテ

秋季皇靈祭

秋分日

神嘗祭

十月十七日

明治節

十一月三日

新嘗祭

十一月二十三日

冬季休業

十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マテ

第四章 入學及在學

- 第一條 入學ノ期ハ每學年ノ初トス
- 第二條 本校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ規定ノ入學資格ヲ有シ且ツ體格検査ニ合格シタル者タルヘシ
- 第三條 前條ノ入學志願者數募集人員ニ超過スルトキハ選抜試験ヲ

行フ

- 第四條 選抜試験ハ大正八年四月十九日 文部省令第十四號ニヨリテ之ヲ行フ

選抜試験ヲ受クル者ハ入學檢定料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ既納ノ入學檢定料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

第五條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ指定ノ期日內ニ入學料金參圓ヲ納メ履歷書及父兄若クハ父兄ニ代リテ其ノ責ニ任スヘキ者ノ連署セ

ル在學證書(書式第一號)ヲ差出スヘシ
前項ノ手續ヲ了セサルトキハ其ノ入學ノ許可ヲ取消ス

第六條 入學シタル者ハ規定ノ宣誓ヲナシ宣誓名簿ニ記名スヘシ
第七條 退學セシ者又ハ除名セラレタル者一ケ年以內ニ復校ヲ願出

ツル場合ニハ詮議ノ上許可スルコトアルヘシ

第八條 修學部類ヲ變更センカ爲メ在學ノ儘更ニ高等學校ノ入學試験ヲ受ケントスルトキハ豫メ願出ツヘシ
他ノ直轄學校ノ入學試験ヲ受ケントスル者ハ之ニ準ス

第五章 進級及卒業

第一條 各學年ノ末ニ於テ各生徒ノ行狀勤惰學業成績等ヲ考查シ合格ノ者ハ進級若クハ卒業セシメ不合格ノ者ハ原級ニ止ム

第二條 學業成績ハ日常ノ課業臨時試業並學期試業ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ定ム

一、臨時試業ハ課業進度ニ應シ教官ノ見込ニヨリ之ヲ施行ス

二、學期試業ハ成績考查上特ニ必要ト認ムル學科ニ限リ各學年ノ末ニ於テ之ヲ施行ス

第三條 學業成績ノ考查ハ別ニ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 前條ニ依リ原級ニ止メタル者ニハ次學年ノ初ヨリ當該學級ノ全學科ヲ再修セシム

第五條 卒業成績ハ三學年間ノ學業成績及行狀勤惰等ヲ考查シテ之ヲ定ム

第六條 所定ノ課程ヲ履修シ卒業セルモノニハ第二號書式ノ卒業證書ヲ授與ス

第六章 休學

第一條 疾病又ハ止ムヲ得サル事故ニヨリ三ヶ月以上修學スルコト能ハサル見込ノ者ハ願ニヨリ其ノ學年間休學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 休學セント欲スル者ハ疾病ナラハ本校指定ノ醫師又ハ公私

立病院ノ診斷書ヲ添ヘ父兄若クハ父兄ノ責ニ任スヘキ者ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ

第三條 休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ初ヨリ其原級ニ入り修學セシム

兵役ニ服スル爲メ休學ノ許可ヲ得タルモノハ除隊後直ニ原級ニ復スルモノトス

第四條 休學ノ事由止ミタルトキハ許可ヲ得テ課業ニ就クコトヲ得

第五條 休學ハ同一學級ニアル間ハ一回ニ限ル但兵役ニ服スル爲メ

休學セル者ハ此限リニアラス

第七條 退學及除名 生徒疾病其ノ他事故ニ依リ退學セント欲スルトキハ其ノ事

由ヲ詳記シ父兄若クハ父兄ノ責ニ任スヘキ者ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ當ル者ハ除名ス

一、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナキ者

二、引續キ一ケ年以上缺席セル者

三、正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席セル者

四、出席常ナラサル者

五、引續キ二回同級ニ止マル者

但兵役ニ服スル爲メ同級ニ止マル回数ヲ除ク

六、授業料寮費ノ怠納十四日ニ及フ者

第三條 除名ニ關シテハ前條ニ指定シタル場合ノ外臨機ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第八章 懲戒

第一條 品行不良或ハ校規風儀ヲ紊亂シ其ノ他生徒ノ本分ニ背戾セ
ル者ハ單ニ形跡ニ拘ラス主トシテ德義ニ基キ之ヲ懲戒ニ處ス

第二條 懲戒ハ之ヲ分チテ戒飭停學放校ノ三トス

第九章 授業料

第一條 授業料ハ左表ニ依リ各學期ニ分納セシム

授業料年額	五拾圓	六拾五圓	大正十三年入學者	大正十四年入學者
同第一學期分	貳拾圓	貳拾五圓		
同第二學期分	拾五圓	拾圓		
同第三學期分	拾五圓	貳拾圓		

各學期分納額ノ納期日ハ左ノ通りトス

第一學期分 四月 自十五日 至二十一日

第二學期分 九月 自十五日 至二十一日

第三學期分 一月 自十五日 至二十一日

前項納期ノ初日以後ニ入學ヲ許可セラレタル者ニハ入學ノ許可ヲ
得タル日ヨリ七日以内ニ當該學期ノ授業料ヲ納入セシム

學期開始後ニ於テ退學スル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヲ徴收ス但シ
除名又ハ放校ニ處シタル者ハ此限リニアラス

第二條 授業料ハ缺席停學等ノ爲メ免除セス但兵役ニ服スル爲メ休
學スル者ニハ次期以降ノ分納額ヲ免除シ其ノ他ノ休學者ニハ其ノ
半額ヲ免除ス

第三條 休學、退學、除名、放校等ノ場合ニ於テモ既納ノ授業料ハ還付セ

第四條 休學者休學ノ事故止ミテ課業ニ就キタルトキハ當期分ノ授業料全額ヲ徴收ス

第五條 定期日内ニ授業料ヲ納メサル者ハ未納中登校ヲ差止ム

第十章 生徒寮規程

第一條 生徒寮ハ寮生ヲシテ本校教育ノ趣旨ニ基キ協同生活ノ訓練ヲ受ケシムル處トス

第二條 新ニ入學セル生徒ハ總テ生徒寮ニ入ルヘキモノトス但シ本校ノ都合又ハ生徒願出ノ事情ニ依リ通學セシムルコトアルヘシ

第三條 生徒ハ入寮ノ際在寮誓書ヲ差出スヘシ(第三號書式)

第四條 寮生ハ猥ニ退寮ヲ許サス

第五條 寮生ハ生徒監ノ指導ヲ受クヘシ

第六條 寮生ハ寮生規約ヲ定メ學校長ノ許可ヲ經テ之ヲ實行スヘシ

第七條ノ一 寮費ハ一學年金貳拾貳圓トシ左ノ三期ニ分納セシム

第一學期分 金八圓 四月自二十五日至二十一日

第二學期分 金八圓 九月自二十五日至二十一日

第三學期分 金六圓 一月自二十五日至二十一日

學期ノ中途入寮シタル者ノ寮費ハ月割トシ入寮ノ月ハ在寮一ヶ月ト看做ス

納期ノ初日ヲ過キテ入寮シタル者ノ當期寮費ノ納入期日ハ入寮ノ日ヨリ七日間トス

學期ノ中途退寮スルコトアルモ既納ノ寮費ハ還附セス

第七條ノ二 食費ハ毎月十六日ヨリ其ノ月ノ末日迄ニ支拂フヘシ

第七條ノ三 寮費及食費ヲ怠納スル者ハ其間登校ヲ差止ム

第八條 各室人員ノ配當及人員検査、門限等ノ時刻ハ學校長ノ承認ヲ經テ生徒監之ヲ定ム

第九條 外出、旅行、歸省等ニ關シテハ左ノ手續ヲ經ヘシ

- 一、 外出ノ際門限時刻ニ遅ルヘキ事情アル者ハ豫メ其事由ヲ寮務課ニ届出ツヘシ
- 一、 已ムヲ得サル事故生シ門限時刻後歸寮セル者ハ直ニ遅刻ノ事由ヲ寮務課ニ届出ツヘシ
- 一、 已ムヲ得サル事故ニ依リ門限時刻後特ニ外出セントスル者ハ其事由ヲ明ニシ寮務課ノ認許ヲ受クヘシ
- 一、 旅行、歸省若クハ臨時外泊セントスル者ハ豫メ其事由ヲ詳記シ生徒監ヲ經テ學校長ノ認許ヲ受クヘシ

一、 外出中前項ノ手續ヲ爲ス違ナクシテ外泊セル者ハ速ニ其事由ヲ詳記シ外泊先ノ證明書ヲ添ヘ生徒監ヲ經テ學校長ニ届出テ認許ヲ受クヘシ

第十條 寮生ニシテ寮内備付ノ器具等ヲ破壊若クハ亡失シタル時ハ其情狀ニ依リ之ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

書式

第一號書式

在學證書

相當印紙

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ御校在學中ハ學則ヲ誠實ニ遵守可致ス勿論御校學籍ヲ脱シ候後ト雖モ在學中ニ生シタル

一切ノ義務ハ違背ナク履行可致候若シ違背致候節ハ連署者ニ於テ一切之ヲ引受可申仍而證書如件

年 月 日

本籍族稱(戸主又ハ何某男又ハ弟)

現住所

何

某

印

何年月日生

本人ノ父兄若クハ父兄ノ責ニ任スヘキモノ

本籍族稱

現住所

本人ニ對スル關係

何

某

印

何年月日生

第六高等學校長何誰殿

第二號書式

卒業證

府縣族稱

何

某

何年月日生

右者本校高等科文(理)科甲(乙)類ノ學科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年 月 日

校印

第六高等學校長位勳學位爵姓名

印

番 號

第三號書式

印紙

在寮誓書

私儀今般御校生徒寮ニ入寮致候ニ付テハ生徒寮諸規則堅ク相守リ
可申此段相誓候也

本籍

族稱

戸主又ハ戸主何某何男(弟)

科年類

年月日

姓

名

印

何年月日生

前書何某入寮致候ニ付テハ在寮中ハ勿論退寮後ト雖モ同人在寮中
ニ係ル事件ハ拙者ニ於テ一切負擔可致候也

本人ノ父兄若クハ父兄ノ責ニ任スヘキ者

本籍族稱

年月日 現住所

職業

本人ニ對スル關係

姓

名

印

何年月日生

第六高等學校長何誰殿

五、細則

第一章 授業規程

- 第一條 生徒ハ授業ノ始及終ニ於テ教官ニ對シ起立敬禮スヘシ
- 第二條 授業中ハ教官ノ許可ナクシテ教場外ニ出ツヘカラス
- 第三條 受持教官定刻ニ至ルモ教場ニ出場セサルトキハ教務課ニ問合セ其ノ指揮ヲ受クルニアラサレハ決シテ隨意退散スヘカラス
- 第四條 課業上必要ナル物品ノ外ハ一切教場内ニ携帯スヘカラス
- 第五條 病氣又ハ已ムヲ得サル事故ニヨリ缺席セル者ハ生徒課備附ノ承認簿ニ其ノ事由ヲ記シ當日ヨリ三日以内(休日ヲ除ク)ニ監督教官ノ承認ヲ受クヘシ但三日以上引續キ缺席シテ本條ノ手續ヲナス

能ハサルトキハ最初ヨリ三日以内ニ書面ヲ以テ届出ツヘク又疾病七日以上ニ涉ルトキハ校醫ノ診斷書ヲ差出スヘシ

- 第六條 遅刻又ハ缺課セントスルモノハ前條ノ帳簿ニ其ノ事由ヲ記シ豫メ其ノ最初ノ學科受持教官ノ承認ヲ受クヘシ但第一時限ニ於テ遅刻又ハ缺課セル者ハ當日中ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第七條 監督教官缺勤退出等ノ爲期間内ニ承認ヲ受ケ難キトキハ生徒課ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ

第八條 病氣ノ爲メ學期試業、行軍、實彈射擊等ニ缺課缺席スルモノハ届出ト共ニ校醫ノ診斷書ヲ差出スヘシ

第九條 第五條及第六條ノ手續ヲ爲ササルモノハ無届ノ缺席日數、遅刻又ハ缺課回數ニヨリ總平均点ヨリ減点ス

第二章 生徒心得

- 第一條 本校生徒ハ本校規則、告示、命令ニ服從シ其ノ本分ヲ忘ルヘカラス
- 第二條 本校生徒ハ本校職員ニ對シテハ勿論生徒相互ニ脱帽敬禮スヘシ
- 第三條 本校生徒ハ嚴ニ飲酒ヲ禁ス
- 本校生徒ハ料理店又ハ風儀ヲ紊スノ虞アル場所へ出入スヘカラス
- 第四條 屋内ニ於テハ教室ハ勿論指定以外ノ場所ニ於テ喫烟スヘカラス
- 第五條 本校所屬ノ建物及器物ヲ毀損シ若クハ汚染シタルモノハ辨償セシメ情狀ニヨリ懲戒ニ處ス
- 第六條 別ニ規程ヲ設ケタルモノ、外生徒ノ差出ス願届書ハ總テ監

督教官ノ承認ヲ經ヘシ

- 第七條 本校生徒及其ノ父兄若クハ之ニ代ハルモノニシテ其ノ宿所ヲ變更シ又ハ戶籍上異動ヲ生セシトキハ速ニ届出ツヘシ
 - 第八條 本校ノ告示ハ所定揭示場ニ發表ノ上ハ一般ニ知了シタルモノト看做スヲ以テ生徒ハ常ニ注意スヘシ
 - 第九條 本校生徒ハ舉テ本校所定ノ校友會員トナルヘキ義務アルモノトス
- 第三章 生徒集會規程
- 第一條 生徒ノ集會ハ總テ生徒課ノ認可ヲ經ヘシ本校生徒外ノ者ト共ニスル集會モ亦同シ
 - 但寮生ノミノ集會ハ寮務課ノ認許ヲ經ヘシ

第二條 級會室會其ノ他相互ノ懇親ヲ目的トスル集會ハ總テ集會所ニ於テ行フヘシ

第三條 生徒ハ本校生徒外ノ者ト共ニスル場合ニ於テモ料理店ニ集會スルコトヲ許サス

第四條 集會ヲ催サントスルトキハ其ノ前日迄ニ寮生ノミノ集會ハ寮務課ニ其ノ他ノ集會ハ生徒課ニ願出テ認許証ヲ受クヘシ

第四章 學業成績考查細則

第一條 各學科ノ成績ニ對シ評點ヲ附ス之ヲ學期評點及學年評點ノ二種トス各一百ヲ以テ最高點ト定ム

第二條 各學科ノ學期評點ハ當該學期間ノ日常ノ課業通常試業及學期試業ノ成績ニヨリテ定ム

第三條 各學科ノ學年評點ハ各學期評點ノ和ヲ三ヲ以テ除シタルモノトス

第四條 學期試業ニ缺席シタルモノニハ零點ヲ附ス其ノ缺席ノ理由正當ナリト認メタルモノニハ第一若クハ第二學期試業ニアリテハ他ノ學期評點平均數ノ十分ノ六ヲ附スルコトアルヘク第三學期試業ニアリテハ該科目ノ第一、第二學期評點平均數六十以上ナル場合ニ限り其ノ年四月上旬ニ追試業ヲ行フコトアルヘシ但第三學期試業ニ缺席シタル場合ニ限り平素ノ行狀學業成績出席狀況等ヲ考查シ特ニ認定ノ上進級又ハ卒業セシムルコトアルヘシ
前項ノ追試業ニアリテハ其ノ評點ノ十分ノ八ヲ以テ得點トナス
學期試業ヲ缺クコト二回ニ及ヘル者ニハ學年評點ヲ附セス
第五條 停學ノ處分ヲ受ケタル者ニハ其ノ期間試業其ノ他ノ方法ニ

ヨリテ評點ヲ附スル事ナク解停後ト雖モ追試業ヲ行フコトナシ

第六條 學年ノ終ニ於テ各學科學年評點ノ平均數六十以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ當タルモノハ進級又ハ卒業セシム但行狀不正ノモノ又ハ出席不良ノモノハ原級ニ止ム

一、學年評點六十未満ノ科目ナキモノ

二、學年評點六十未満ノモノ一科目アルモ其ノ評點五十以上ノモノ又ハ其ノ評點五十以下四十以上ニシテ其ノ科目ノ學期評點數六十以上ナルコト一回以上ノ者

三、學年評點六十未満ノモノ二科目アルモ其ノ評點孰レモ五十以上ノモノ

四、學年評點六十未満ノモノ三科目以上アルモ其ノ數履修セル總科目ノ三分ノ一或ハ三分ノ一以下ニシテ該科目皆學期評點六十

以上ナルコト一回以上ノモノ

第五章 通學生徒規程

第一條 通學生徒ハ宿所選定ノ日ヨリ三日以内ニ監督教官ノ承認ヲ經テ宿所届ヲ生徒課ニ差出スヘシ轉宿ノトキ亦同シ

第二條 通學生徒ハ其ノ宿所ノ位置宿主ノ職業家庭ノ狀態又ハ其ノ他ノ事情ニシテ不適當ナルトキハ他ニ轉宿ヲ命セラルルコトアルヘシ

第三條 通學生徒ニシテ生徒寮食堂ニ於テ食事ヲナサント欲スル者ハ寮務課ニ願出テ其指揮ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ生徒寮規程ヲ適用ス

第四條 通學生徒ニシテ生徒寮ニ於テ生徒ニ面會スルニハ必ス生徒寮應接室ニ於テスヘシ

第六章 監督教官規程

第一條 各組ニ監督教官一名ヲ置ク

第二條 監督教官ハ教官中ニ就キ學校長之ヲ命シ其ノ任期ハ一學年間トス

第三條 監督教官ハ當該組ヲ統率シ風紀ヲ維持シ校規命令ノ實行ニ努メ教室内ノ秩序及清潔ヲ保持スヘシ

第四條 監督教官ハ所屬生徒ノ學業品行勤惰及健康ニ留意シ父兄ト聯絡シテ其ノ本分ヲ完ウセシメンコトヲ期スヘシ

第五條 監督教官ハ所屬生徒ヨリ差出スヘキ願届書ヲ審査スヘシ

第七章 級長及副級長規程

第一條 各組ニ級長副級長各一名ヲ置ク

第二條 級長及副級長ハ其ノ組生徒ヲシテ若干名ノ候補者ヲ互選セシメタル中ニ就キテ學校長之ヲ命シ其ノ任期ハ一學年間トス

第三條 級長及副級長ハ監督教官ノ指揮ヲ受ケ其ノ組ノ風紀ニ注意シ命令ヲ傳達シ教室内ノ整頓清潔ヲ保持スヘシ

第八章 評議員規程

第一條 本校ニ評議員若干名ヲ置ク

第二條 評議員ハ本校教授中ニ就キ學校長之ヲ命ス

第三條 評議員ハ學校長ノ諮詢ニ應シ意見ヲ述フ

第九章 教授會規程

第一條 教授會ハ本校教授ヲ以テ之ヲ組織シ學校長之ヲ召集ス

但場合ニヨリ教授以外ノ職員講師ヲシテ列席セシムルコトアルヘシ

第二條 教授會ハ學校長ノ諮詢ニ應シ左ノ事項ニ付キ審議ス

一 學科課程ニ關スル事項

二 授業ニ關スル事項

三 生徒ノ懲戒ニ關スル事項

四 生徒ノ監督ニ關スル事項

五 生徒寮ニ關スル事項

前項ノ外學校長ニ於テ必要ト認メタル事項

第三條 教授會ハ必要ニ應シ隨時之ヲ開クモノトス

第十章 服裝規程

第一條 本校生徒ノ服裝ハ左ノ如ク之ヲ制定ス

一、帽

制式 海軍形

品質 羅紗

色 黒

品質 略 帽

制式 縁三寸高二寸五分 鉢巻焦茶布巾一寸五分

徽章正帽ニ同シ

品質 麥藁

三、帽章

制式 前額部ニ本校所定ノ徽章ヲ附ス
外ニ額部ノ周圍ニ白線二條ヲ附ス

品質 真鍮

四、冬服

制式 立襟

品質 小倉若クハヘル

色 紺

鈕釦 色黄、品質真鍮、本校ノ徽章ヲ附セルモノ

五、夏服

制式 冬服ニ同シ

品質 小倉

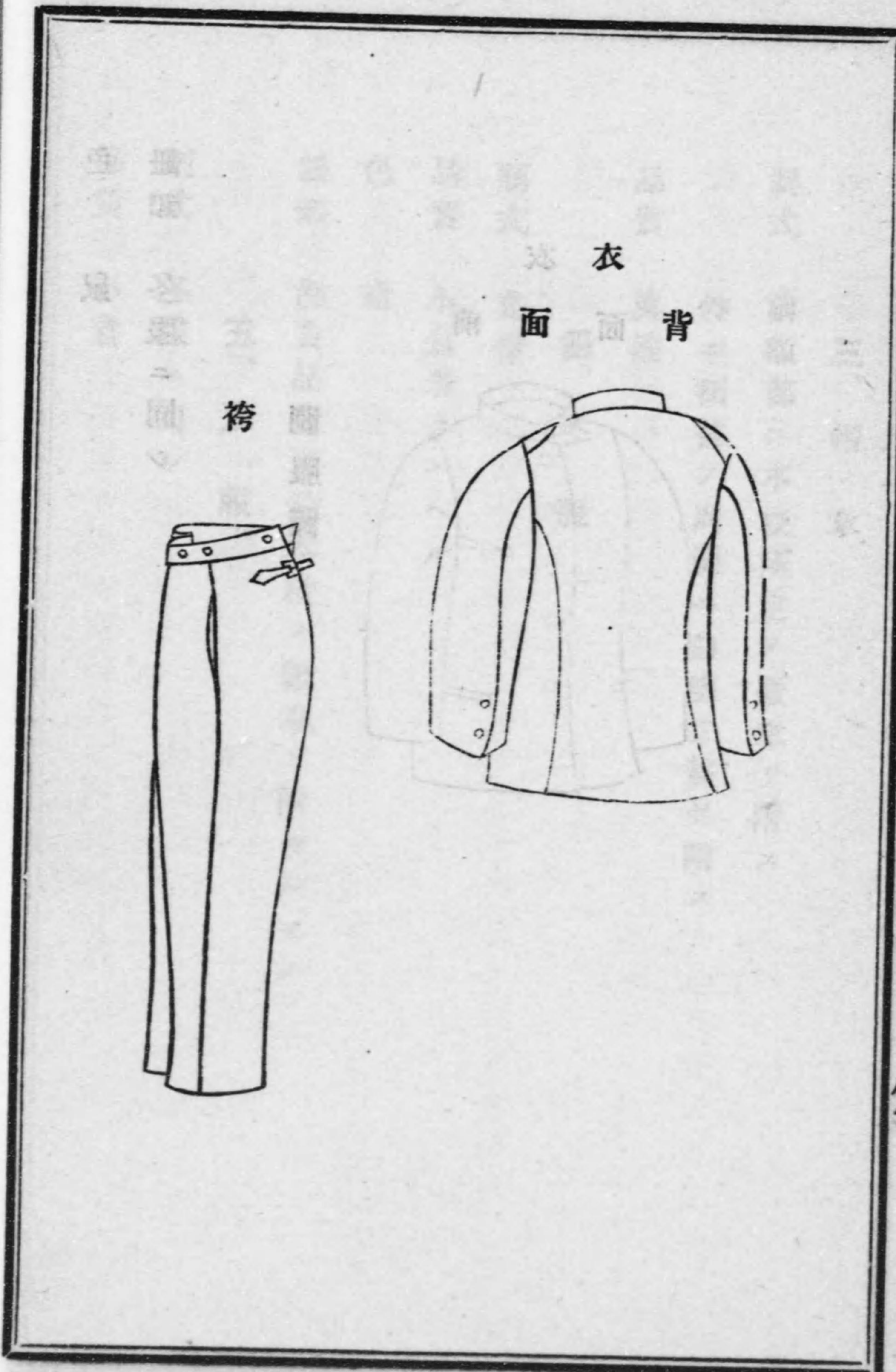
鈕釦 色黄、品質真鍮、本校ノ徽章ヲ附セルモノ

色 鼠
鈕釦 冬服ニ同シ

制服圖



衣 前
面



六、靴

制式黒革

第二條 左ノ場合ニハ前條制定ノ服裝ヲナスヘシ

儀式舉行ノ場合

授業ヲ受クル場合

本校ヨリ特ニ指定シタル場合

第三條 生徒ハ居常成ルヘク制服ヲ着用スヘシ若シ和服ヲ着用スル

トキハ必ス着袴シ外出ノトキハ更ニ制帽ヲ着スヘシ

第十一章 圖書閱覽室規程

第一條 閱覽室ハ休日ノ外毎日之ヲ開ク

第二條 閱覽室ハ毎日午前八時ニ開キ午後九時ニ閉ツ

- 但日曜日ハ午後五時ヨリ之ヲ開ク
- 第三條 生徒ハ學年ノ初ニ於テ圖書課ヨリ閱覽票ノ交付ヲ受クヘシ
- 第四條 圖書ヲ借受ケントスルモノハ貸付用紙ニ所定ノ事項ヲ記入シ閱覽票ト共ニ之ヲ係員ニ差出スヘシ
- 但閱覽室備付ノ圖書ハ此ノ手續ヲ要セス
- 第五條 閱覽者ハ一時ニ洋書五冊和書十冊以上ヲ借受クルコトヲ得ス
- 第六條 借受ケタル圖書及閱覽室備付ノ圖書ハ之ヲ室外ニ携帯スルコトヲ得ス
- 第七條 借受タル圖書ハ他ニ轉貸スヘカラス
- 第八條 借受タル圖書ノ閱覽ヲ了リタルトキハ直ニ之ヲ返納シ閱覽票ヲ受取ルヘシ

第九條 閱覽室内ニテハ一切音讀談話其ノ他喧噪ノ舉動ヲナスヘカラス

第十條 借受ケタル圖書ハ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ若シ汚漬破損若クハ紛失シタルトキハ之ヲ辨償セシム

第十一條 前條ノ規程ニ違反スル者ハ退室ヲ命スルコトアルヘシ

六、掌務細則

第一節 校務分掌規程

第一條 校務ヲ分掌セシムル爲左ノ各課ヲ置ク

教務課

生徒課

寮務課

庶務課

會計課

圖書課

第二條 各課ニ課長ヲ置ク

第三條 各課ノ課長ハ教授中ニ就キ學校長之ヲ命ス但寮務課長ハ生徒

徒監中ニ就キ之ヲ命シ會計課長ハ會計主任ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 各課ノ課長ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ當該課ニ關スル事務ヲ掌

理スヘシ

第五條 各課ニ係員ヲ置ク係員ハ上官ノ指揮ヲ受ケ各其ノ課ノ事務

ヲ處理ス

第六條 教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 學課配當ニ關スル事項

二 教科書ニ關スル事項

三 授業上設備ニ關スル事項

四 教室ニ關スル事項(但特別教室ヲ除ク)

五 生徒ノ訓育及懲戒ニ關スル事項

- 六 教官會議及評議員會ニ關スル事項
- 七 教務上ノ命令傳達並通知ニ關スル事項
- 八 生徒ノ入學、在學、退學、休學ニ關スル事項
- 九 生徒ノ學籍ニ關スル事項
- 十 卒業生ニ關スル事項
- 十一 學級編成ニ關スル事項
- 十二 試業及成績ニ關スル事項
- 十三 學力檢定ニ關スル事項
- 十四 生徒證明書等ニ關スル事項
- 十五 生徒修學旅行等ニ關スル事項
- 十六 參觀人取扱ニ關スル事項
- 十七 宣誓式ニ關スル事項

- 十八 前項ノ外教務ニ關スル一切ノ事項
- 第七條 生徒課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 生徒ノ風紀取締及衛生ニ關スル事項
 - 二 生徒ノ體格檢査ニ關スル事項
 - 三 生徒ノ訓誨及懲戒ニ關スル事項
 - 四 生徒ノ勤惰ニ關スル事項
 - 五 生徒控所ノ整理ニ關スル事項
 - 六 生徒ノ願、伺、届等ニ關スル事項
 - 七 生徒ノ集會、運動會及文書類ニ關スル事項
 - 八 團體旅行ノ取締ニ關スル事項
 - 九 級長及副級長ニ關スル事項
- 第八條 寮務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 在寮生徒ノ風紀及衛生ニ關スル事項
 - 二 在寮生徒ノ訓育及取締ニ關スル事項
 - 三 在寮生徒ノ懲戒ニ關スル事項
 - 四 在寮生徒ノ集會及文書類ニ關スル事項
 - 五 生徒寮賄所、病室、浴室、生徒集會所其ノ他生徒寮附屬建物ノ整理ニ關スル事項
 - 六 生徒寮ニ屬スル守衛及賄方取締ニ關スル事項
 - 七 前項ノ外生徒寮ニ關スル事項
- 第九條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 御聖影及勅語ノ保管ニ關スル事項
 - 二 校長ノ官印及校印ノ保管ニ關スル事項
 - 三 雇員以上ノ職員ノ進退身分ニ關スル事項

- 四 備外國人ニ關スル事項
 - 五 各課成案文書回議ノ審査ニ關スル事項
 - 六 公文書類ノ起案記録ノ編纂及保管ニ關スル事項
 - 七 公文書類ノ授受發送ニ關スル事項
 - 八 諸規則ノ創定變更等ニ關スル事項
 - 九 一覽統計報告等ニ關スル事項
 - 十 儀式ニ關スル事項
 - 十一 當直ニ關スル事項
 - 十二 寄附願ニ關スル事項
 - 十三 生徒ノ兵役ニ關スル事項
 - 十四 各課ノ主掌ニ屬セザル校務上ノ事項
- 第十條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 資金ノ監理ニ關スル事項
- 二 資金ノ豫算及決算ニ關スル事項
- 三 歳入歳出豫算及決算ニ關スル事項
- 四 歳入ノ確定收入及證明ニ關スル事項
- 五 經費ノ仕拂及證明ニ關スル事項
- 六 物品ノ保管及購買ニ關スル事項
- 七 物品ノ貸借及修理ニ關スル事項
- 八 物品ノ出納及證明ニ關スル事項
- 九 營繕ニ關スル事項
- 十 警備並災害ノ防止及消毒ニ關スル事項
- 十一 本校内外ノ掃除ニ關スル事項
- 十二 不用物品ノ處分ニ關スル事項

- 十三 電話、電燈及給水ニ關スル事項
- 十四 巡視、守衛、給仕、校丁以下進退及取締ニ關スル事項
- 十五 門鑑ニ關スル事項
- 十六 人夫ノ傭入及其ノ取締ニ關スル事項
- 十七 物品ノ運搬並收受但小包郵便ヲ除クニ關スル事項
- 十八 前項ノ外會計ニ關スル事項
- 第十一條 圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 圖書ノ監守、保管及出納ニ關スル事項
 - 二 圖書印ノ保管ニ關スル事項
 - 三 圖書ノ貸付ニ關スル事項
 - 四 圖書閱覽室及其ノ取締ニ關スル事項
 - 五 圖書ノ目錄編纂及整理ニ關スル事項

六 新聞雜誌年報一覽等ノ保管及出納ニ關スル事項
七 前項ノ外圖書ニ關スル事項

第二節 事務員服務規程

第一 事務員

- 第一條 事務員ハ執務時限前ニ昇校シ直ニ出勤簿ニ捺印スヘシ
第二條 當日ニ生ジタル事務ハ可成即日處辨スヘシ若シ即日處辨スヘキ事務ニシテ執務時間中ニ處辨シ終ラサルモノアルトキハ退校時限ニ至ルト雖モ事務處辨ノ後ニアラサレバ退校スルコトヲ得ス
第三條 監督上官ヨリ特ニ命令アルトキハ執務時間外又ハ休日ト雖モ執務スヘシ
第四條 疾病其ノ他ノ事故ニヨリ遅刻セントスルトキ又ハ出勤シ難

- キ時ハ其ノ事由ヲ具シ執務時限前ニ學校長ニ届出ツヘシ但疾病ノ爲缺勤一週間ニ及フトキハ届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス爾後一週間毎ニ同様ノ手續ヲ爲スヘシ
第五條 執務時間中發病其他ノ事故ニ依リ執務ノ場所ヲ離レントスルトキハ其ノ事由ヲ申告シテ學校長ノ許可ヲ受クヘシ
第六條 父母ノ忌日ニ丁リ祭典ヲ舉行スル爲ニ不參セントスルモノハ其ノ旨前日中ニ届出ツヘシ
第七條 親屬ノ喪ニ遇ヒ忌服ヲ受クルトキハ死者ノ氏名並死者トノ親屬關係ヲ表示シタル忌引届ヲ差出スヘシ
第八條 新任ノ者ハ七日以内ニ履歷書印鑑及宿所届ヲ差出スヘシ爾後改印轉居等ハ其ノ都度届出ツヘシ
第九條 出張ノ命ヲ受ケタルモノハ出發ノ際及歸校ノ際共其ノ旨學

校長ニ届出ツヘシ
前項ノ場合ニ於テハ歸校後五日以内ニ復命書ヲ學校長ニ差出スヘシ
シ若シ學術研究ノ爲出張ヲ命セラレタル場合ニ在リテハ研究ノ結果ヲ報告スヘシ

第十條 出張旅費請求書 歸校後三日以内ニ差出スヘシ又出張先ニ於テ臨時必要ヲ生シタル費用即荷造用ノ物品代若クハ郵便電信料等私費繰替拂ヲ爲シタルモノアルトキハ歸校後三日以内ニ仕譯書ヲ添ヘ會計課ニ請求スヘシ但私費繰替ノ償還請求ニハ確實ナル證憑ヲ添付スルヲ要ス

第十一條 轉免ノ節ハ事務及物品等ノ引繼ヲ爲スヘシ引繼ハ書面ヲ作リ受渡者雙方連署ヲ以テ届出ツヘシ

第十二條 火器其ノ他危險物ニツキテハ擔當事務ニ屬スルト否トヲ

問ハス事務員互ニ注意シ充分取締ヲ爲スヘシ

第十三條 風水震災其ノ他非常異變アルカ又ハ校内若クハ其ノ近傍ニ於テ出火アルトキハ速ニ昇校シテ上官ノ指揮ニ從フヘシ

附 則

第十四條 本則ハ教官及囑託者ニ準用ス

第二 當 直

第十五條 本校當直勤務ハ本校書記及事務雇員輪番ヲ以テ一名宛之ニ任ヌ其ノ順番ハ別ニ之ヲ定ム

當直勤務ハ場合ニヨリ前項職員以外ノモノニモ命スルコトアルヘシ

第十六條 當直時間ハ左ノ如ク定ム

一 平日ハ退校時限ヨリ翌日昇校時限迄トス

二 休日ハ其ノ日ノ昇校時限ヨリ翌日ノ昇校時限迄トス

但昇校時限ハ當時ノ執務時間ノ規定ニ從フ

第十七條 左ノ諸項ノ一ニ當ルトキハ當直ヲ免ス

一 出張ヲ命セラレタル者ハ出張中ハ勿論出張ノ前日又歸校ノ翌日

二 病氣其ノ他ノ事故ニヨリ本務ヲ缺クモノハ缺勤届出ノ當日

第十八條

前條ノ事由ニヨリ除直スルモノアルトキハ當直順ハ順次

繰上トス

第十九條 當直者止ムヲ得サル事故ニヨリ他ノ當直ノ義務アル職員

ヲシテ代番セシメントスルトキハ其ノ旨連署ヲ以テ届出ツヘシ

第二十條 當直ノ義務アル職員新任ノ時ハ出校ノ日ヨリ起算シ一週

日ノ後當直順番ニ挿入ス此ノ場合ニ於テハ他ノ當直者ノ順番ハ當然順次繰下クルモノトス又轉免者アルトキハ順番ノ繰上ヲナスヘシ

第二十一條 當直勤務ノ主要ナル事項ハ概ネ左ノ如シ

一 聖影奉安室及其ノ他ノ鎮鎰竝當直日誌ノ保管ヲナスコト

二 巡視校丁等ヲ監督シ校舍内外一切ノ取締ヲ爲スコト

三 往復物件ヲ處分スルコト

四 火器其ノ他火災ノ虞アル器物ニ對シテ注意スルコト

第二十二條 當直日誌ニハ左ノ諸件ヲ記載スルヲ要ス

一 當直ノ年月日竝宿直者ノ氏名捺印

二 巡視校丁、火夫ノ氏名

三 到著若クハ發送セシ物件ノ目錄

英語	文學士	緒方健三郎	岡
歷史、地理	文學士	松本彦次郎	青森
法制及經濟	法學士	石津稟三	岡山
英語	文學士	近成多一	岡山
數學	理學士	山内友五郎	新潟
英語	M.A. (Columbia)	中村平長	野
英語	文學士	山宮允	岡山
獨語	文學士	大本琢壽	岡山
數學	理學士	三宅虎雄	岡山
動物	理學士	佐藤林三	長崎
修身、心理及論理	文學士	中島信一	滋賀
化學	理學士	高柳義一	富山

(在外研究中)

物理	理學士	宮原節	廣島
歷史	文學士	高橋謙	東京
英語	文學士	高宮儀助	新潟
國語	文學士	麻生磯次	千葉
數學	理學士	上總常雄	大阪
數學	理學士	岩切晴二	宮崎
植物及動物	理學士	河南宏	兵庫
哲學概說、獨語	文學士	野田淨	滋賀
獨語	文學士	山岡直道	北海道
獨語	文學士	杉山茂	愛知
國語	文學士	森敬三	和歌山
國語	文學士	小西謙	石川

自然科學、化學	理學士	(元木南)	赤堀昇三郎岡山
法制及經濟	法學士	鱧	正太郎靜岡
獨語	文學士	古川	尙雄佐賀
歷史	文學士	宮崎	市定長野
講師			
圖書		松尾哲太郎岡山	
體操		服部克己兵庫	
圖書		吉田	苞岡山
英語		木畑竹三郎岡山	
礦物及地質	理學士	八木正衛高知	
體操	陸軍步兵曹長	富森修三宮崎	
體操	陸軍步兵大尉	高月光丸山口	

武道	德山勝彌太岡山	
物理	理學士	那須常正愛媛
外國人講師		D. A. Wilson 米國
英語		Walthar Hautz 獨國
獨語		
助教		
體操	陸軍步兵中尉	三島歡二郎島根
柔道		金光彌一兵衛岡山
劍道		千頭直之高知
書記		板野榮次郎岡山

事務囑託

助手

地質礦物學教室勤務

化學教室勤務

化學教室勤務

森 幸太 岡山

松本 鐵太 岡山

藤原 正男 岡山

難波 壽平 岡山

小野 磯次郎 岡山

河合 堯永 岡山

小林 長二郎 岡山

藤田 親章 岡山

澁谷 整一 岡山

三宅 博 岡山

生物學教室勤務

物理學教室勤務

物理學教室勤務

圖書教室勤務

職員

佐野 健二 岡山

原 正 岡山

深谷 克海 岡山

吉田 豊 岡山

濱 堅之助 岡山

目黒 寅太郎 岡山

岡本 英一 岡山

才崎 敏雄 岡山

相賀 近男 岡山

醫學士 太田 一也 岡山

配屬將校

評議員

陸軍步兵中佐 有留輝三
陸軍步兵大尉 久代富治

教授 秋月胤繼
教授 雜賀修二郎
教授 吉田貞一
教授 緒方健三郎

監督教官

文科一年甲一組
文科一年甲二組
文科一年乙組
理科一年甲一組
理科一年甲二組
理科一年甲三組
理科一年乙組
文科二年甲一組
文科二年甲二組
文科二年乙組
理科二年甲一組

教授 小西謙
教授 松本彦次郎
教授 古川尙雄
教授 近成多一
教授 大本琢壽
教授 河南宏
教授 山岡直道
教授 山宮允
教授 中島信一
教授 森敬三
教授 山岡望

理科二年甲二組
 理科二年甲三組
 理科二年乙組
 文科三年甲一組
 文科三年甲二組
 文科三年乙組
 理科三年甲一組
 理科三年甲二組
 理科三年甲三組
 理科三年乙組

教 授 岩切晴二
 教 授 上總常雄
 教 授 杉山茂
 教 授 緒方健三郎
 教 授 野田淨曜
 教 授 內藤匡
 教 授 山内友五郎
 講 師 松尾哲太郎
 教 授 高柳義一
 教 授 佐藤林三

學科主任

國語及漢文
 物理學
 獨語
 化學
 英語
 歷史、地理
 法制及經濟
 數學
 動物植物及地質礦物
 修身、心理及論理、哲學概說
 圖書
 體操

教 授 秋月胤繼
 教 授 雜賀修二郎
 教 授 內藤匡
 教 授 山岡望
 教 授 緒方健三郎
 教 授 松本彦次郎
 教 授 石津稟三
 教 授 山内友五郎
 教 授 佐藤林三
 教 授 中島信一
 講 師 松尾哲太郎
 講 師 服部克己

事務分課

教務課

長

教授 秋月胤繼

長

教授 石津稟三

長

教授 藤原正男

長

教授 小野磯次郎

長

教授 吉田貞一

長

教授 服部克己

長

教授 高月光丸

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

長

教授 三島歡二郎

寮務課

長

生徒監

教授 雜賀修二郎

(兼)

助教授 高月光丸

囑託 三島歡二郎

講師 小林長二郎

(兼)

書記 富森修三

雇書記 難波壽平

目黒寅太郎

庶務課

圖書課

長

囑託	小野磯次郎
雇	岡本英一
教授	緒方健三郎
囑託	河合堯永
雇	濱堅之助
助手	藤田親章
雇	相賀近男

會計課

長

書記	板野榮次郎
書記	森幸太
書記	松本鐵太
雇	才崎敏雄

校友會中央部役員

會長
副會長
會誌部長
會誌副部長
柔道部長
辯論部長
端艇部長
獨語部長
英語部長
弓道部長
山岳部長

校長 小松倍一
教授 秋月胤繼
教授 山宮允
教授 麻生磯次
講師 松尾哲太郎
教授 吉田貞一
教授 佐藤林三
教授 山岡直道
教授 緒方健三郎
教授 石津稟三
教授 椎名十三

庭球部長
蹴球部長
陸上競技部長
劍道部長
野球部長
柔道教師
劍道教師
弓道教師
校友會庶務主任
校友會會計主任
校友會會計係

教授 上總常雄
教授 三宅虎雄
教授 中島信一
教授 高柳義一
教授 山内友五郎
助教授 金光彌一兵衛
助教授 千頭直之
講師 德山勝彌太
事務囑託 小野磯次郎
書記 板野榮次郎
書記 松本鐵太

八、生徒姓名

(昭和二年五月十日現在)

備考姓名ノ上ニハ、出身中學校名ヲ記ス

文科三年甲類一組

(三十八名)

(福 山)	荒木茂久二	廣島	(横須賀)	一瀬忠	岡山
(第一岡山)	佐藤甲子郎	岡山	(龍 野)	上田義文	岡山
(第二神戸)	藤田靖二	兵庫	(第一神戸)	田上郷平	山口
(魚 津)	大成功三	富山	(横濱第一)	水田長義	長崎
(第一岡山)	益見真澄	岡山	(丸 龜)	北村秀則	香川
(塚)	深井清之助	香川	(第一岡山)	高橋俊士	岡山
(閑 谷)	高取馨	岡山	(關 西)	大月勤	岡山
(岩 國)	小澤彌太郎	山口	(第一神戸)	中田貞治	兵庫

文科三年甲類二組

(三十九名)

(高 梁)	荻野正二	岡山	(第一神戸)	栗井肇	岡山
(田 邊)	三戸岡道保	岡山	(岩 國)	木船直人	山口
(台北第一)	渡邊美安	新潟	(東 山)	藤澤見邑	香川
(丸 龜)	芥 唯雄	香川	(第一岡山)	江口最	岡山
(第二岡山)	中田瀧登	岡山	(塚)	大塚泰二	大阪
(矢 掛)	松森英雄	岡山	(福 山)	大井重勝	廣島
(關 西)	菱 木清	千葉	(都 城)	池田清秋	宮崎
(第一岡山)	成 本武	岡山	(第一岡山)	宇野善三	岡山
(粉 河)	田嶋義寛	和歌山	(北 野)	野口美雄	大阪
(第二岡山)	尾關四郎	岡山	(海 南)	島内義次	高知
(第二神戸)	中牧忠一	兵庫	(湖南第一)	傅 素	支那
(第一岡山)	出射義夫	岡山	(第一岡山)	向井敬太	岡山
(第二神戸)	加納制一	兵庫	(高 松)	松原寛	香川
(第一神戸)	宮田武志	岡山	(廣島第一)	池田富雄	大阪

(廣島高師附屬中學)桑田庸夫 (第一神戶)磯野正俊 (高梁)大塚篤夫 (第一岡山)和田元 (福山)工藤祿郎 (木更津)石井謹吾 (津山)米田儀 (聖峯)菅義夫 (膳所)上田正平 (第二岡山)高田英治 (高松)西本共介 (第二神戶)角田豐三朗 (白杵)小川真一 (平壤)帆足計 (津山)遠藤直一 (福山)片山夏治	廣島 兵庫 岡山 京都 岡山 千葉 岡山 兵庫 兵庫 岡山 香川 兵庫 岡山 大分 岡山	(第一岡山)西崎孝 (第一岡山)藤崎元男 (津山)齋藤淳 (東京第一)安田樞雄 (北野)西川長敬 (第二岡山)藤村富士太郎 (德島)河崎正臣 (千葉)渡邊保 (福山)小林多喜夫 (今治)野間清 (廣島第一)荒谷千次 (第一神戶)松岡正治 (北野)江村英雄 (青英)三好鹿雄 (第一岡山)藥師寺大器治 (第一岡山)窪田貞三郎	岡山 岡山 長野 東京 兵庫 岡山 德島 千葉 岡山 愛媛 廣島 兵庫 大阪 香川 岡山
--	--	--	--

文科三年乙類 (四十名)

(福山)渡邊潔 (丸龜)前田一良 (第一岡山)岡田秀男 (第一神戶)中西良一 (第一岡山)野宮一男 (高梁)小橋確治 (福山)井手上明 (太田)小林勇 (畝傍)横田利平 (關西)藤原清文 (吳)長澤親一 (第一岡山)光永邦彦 (第一神戶)加茂下良勇 (城東)多田健二郎	廣島 愛媛 岡山 兵庫 岡山 岡山 廣島 群馬 奈良 岡山 廣島 岡山 福島 高知	(第一岡山)松岡豊 (高松)横江文幹 (長岡)勝沼四滿治 (第一岡山)大月桂太郎 (德島)西田貞一 (關西)杉本敏夫 (高崎)岸勇夫 (撫養)矢部清 (茨木)山口寅雄 (丸龜)高木孝詮 (第二岡山)井上魏 (第一神戶)長谷川耕一 (鳥取第一)米原穰	岡山 香川 兵庫 岡山 鹿兒島 岡山 岡山 群馬 德島 大阪 香川 岡山 兵庫 鳥取
---	--	--	---

(廣島高師附屬中學)十時健彦	(陸軍士官學校豫科)高田順勝	(京都第一)	(第二岡山)	(江津縣分立)	(橫濱第一)	(福山)	(福山)	(第一神戸)	(龍野)	(廣島高師附屬中學)眞谷志朗	(和歌山)	(三豐)	
澤田勇兵庫	陳水土台灣	柳井浩岡山	漆相衡支那	武本正義岡山	博田五六廣島	寺岡節也岡山	岡田篤雄岩手	長安實兵庫	上野敬三和歌山	角田高八香川			
(第二神戸)	(第二岡山)	(廣島第一)	(第一岡山)	(第一神戸)	(湖南省)	(姫路)	(第一岡山)	(岩國)	(岩國)	(第一岡山)	(廣島第一)	(丸龜)	
高倉隆兵庫	武内一雄岡山	行田襄岡山	米田一男廣島	根岸眞六岡山	吉田照雄福岡	沈方白支那	宮地榮三廣島	平松頼夫岡山	田中武雄山口	山縣廣山口	行本隆岡山	勝原享三廣島	岩井淳一高知

理科三年甲類一組

(四十名)

(第一岡山)	(富田)	(第一神戸)	(和歌山)	(第一岡山)	(塚)	(高梁)	(京都第二)	(第二岡山)	(今宮)	(第一神戸)	(呼蘭縣第一)	(和歌山)	(丸龜)
牧野仁郎岡山	堀憲義三重	西村甲一兵庫	島本義九郎和歌山	久城修一郎岡山	栗本榮一大阪	黒瀬太一岡山	吉田久雄大阪	香川三六岡山	吉村五郎兵衛大阪	有賀茂兵庫	馬希瑛支那	松島春海和歌山	松浦陽惠香川
(丸龜)	(第二神戸)	(今宮)	(第二神戸)	(柏原)	(第一岡山)	(靜岡)	(廣島第一)	(今治)	(高松)	(高松)	(第一岡山)	(北野)	(第一岡山)
中村勉香川	稻田龍三郎兵庫	中村正毅岡山	山口英太郎兵庫	岸本秀雄兵庫	安原彰一岡山	長阪興男靜岡	岡田實三廣島	渡部義雄愛媛	村主正義香川	高橋渡香川	負他博京都	青木直敏大阪	橋本與平岡山

理科三年甲類二組

(三十九名)

(三 豊)	合田史郎	香川	(德 島)	登川圭一	德 島
(第一岡山)	貝原静太郎	岡山	(第一岡山)	野上強四郎	岡 山
(甲 陽)	伊集院武雄	鹿兒島	(德 島)	坂東依彦	德 島
(三 豊)	菅 陸二	香川	(第一岡山)	山本和夫	岡 山
(岐 阜)	高木博二	岐阜	(第一岡山)	太 田 浩	岡 山
(高 松)	山口敏博	香川	(第一岡山)	井上太郎	岡 山
(吳)	早川 仁	山梨	(三 豊)	合田秀雄	香川
(濱 田)	河野 要	島根	(丸 龜)	綾 龜 一	香川
(小 野)	佐伯武男	兵庫	(台南第一)	宇坪善太郎	愛媛
(第一岡山)	岡崎邦彦	岡山	(郡 山)	飯田 一男	京 都
(開 成)	岡 清隆	岡山	(松本塾)	永 井 勇	新 潟
(堺)	山 本 清	大阪	(第二神戸)	根本 一郎	茨 城
(關 西)	板野坂惠	岡山	(宇和島)	玉井 二郎	愛媛
(今 宮)	高津俊久	大阪	(耐 久)	岩 崎 伸	和歌山
(上 宮)	吉川次郎	大阪	(和歌山)	吉增一馬	和歌山
(北 野)	日下春雄	岡山	(第一岡山)	岡本平八郎	岡 山

理科三年甲類三組

(三十五名)

(室 蘭)	増戸武夫	山形	(第一岡山)	荒木久治	岡 山
(第一岡山)	三島芳徳	岡山	(一高豫科)	漆 宗 興	支 那
(第一岡山)	竹内敬之	岡山	(福 山)	志田原群三	廣 島
(福 山)	寺 岡 正	廣島	(第一岡山)	杉 本 徹	岡 山
(第一神戸)	服部順五	兵庫	(吳)	大野勤治郎	廣 島
(德 島)	小溝協三	福岡	(福 山)	小林治人	廣 島
(第一岡山)	井上忠美	岡山	(第二岡山)	難波善次郎	岡 山
(關 西)	犬飼嘉積	岡山	(和歌山)	近藤洽憚	奈 良
(第二岡山)	野崎澄治	岡山	(津 山)	四宮安平	岡 山
(京都第二)	藤村義夫	京都	(濱 田)	千代延暉士	島 根
(第二岡山)	友 保 誠	岡山	(今 宮)	大道峯雄	大 阪
(第一岡山)	内藤達雄	岡山	(丸 龜)	平澤正欣	香 川
(米 子)	田 中 剛	岡山	(第一岡山)	笹原敏男	秋 田
(開 成)	宮崎道治	東京			

(郡山)	森田 尚文	大阪	(成蹊)	池田 春樹	東京
(關東)	蒲池 真人	東京	(和歌山)	河島 實	和歌山
(撫養)	吉田 稔雄	德島	(修道)	宇津志 俊介	廣島
(島原)	朝永 次夫	長崎	(第二岡山)	淺沼 清志	岡山
(甲陽)	笠原 武夫	岡山	(郡山)	中原 義昌	奈良
(福知山)	内藤 行雄	京都	(第一岡山)	伊達 富久	岡山
(釜山)	外山 二郎	岡山			
理科三年乙類 (三十六名)					
(旅順第一)	藤原 正	岡山	(第二岡山)	梶谷 鏗	岡山
(德島)	英賀 利忠	岡山	(天王寺)	野口 利代二	大阪
(高松)	平田 穰	香川	(豊岡)	小西 公三	兵庫
(第二岡山)	木田 文夫	岡山	(德島)	橋本 政雄	德島
(三豊)	加藤 新	香川	(第一岡山)	高原 正也	岡山
(大垣)	杉野 修二	岐阜	(天城)	佐藤 直泰	岡山
(陸軍士官學校豫科)	進藤 剛	廣島	(三豊)	渡邊 希壽	香川

(廣島高師附屬中學)	木村 忠儀	山口	(德島)	木村 英夫	大分
(廣島高師附屬中學)	栗根 岩男	廣島	(京都第一)	森田 政夫	京都
(第二岡山)	加賀美 寛	岡山	(上野)	田中 博太郎	三重
(半田)	廣田 脩	愛知	(高松)	岡 宏	香川
(津山)	西下 止夫	岡山	(京都第一)	柳田 秀一	京都
(今治)	井出 喜代逸	愛媛	(第一岡山)	小坂 昭男	岡山
(第二神戸)	花岡 晟	三重	(神戸第二)	葛野 恒次郎	兵庫
(畝傍)	澤井 郁次郎	奈良	(第一岡山)	志茂 正規	岡山
(第二神戸)	古川 洋	熊本	(第一岡山)	野崎 升二郎	岡山
(萩)	三浦 不二夫	山口	(第一岡山)	山本 庸夫	岡山
(金光)	佐々木 加壽志	岡山	(廣島第一)	石川 博	廣島
文科二年甲類一組 (四十一名)					
(第一岡山)	司波 實	岡山	(岩國)	山本 忠雄	山口
(三豊)	坂井 豊一	香川	(元山)	芝田 義人	大阪
(第一岡山)	勝山 正倫	岡山	(金光)	小野 芳郎	岡山

(第一岡山)	谷本博	岡山	(和歌山)	北谷將	和歌山
(福山)	門田重武	廣島	(和歌山)	中岡徳次郎	和歌山
(坂出商業)	長尾章	香川	(興讓館中學)	平田伯一	岡山
(關西)	藤澤吟治	岡山	(第一岡山)	岩佐正	岡山
(高梁)	前田稔	岡山	(廣島第一)	大藤亨壯	廣島
(矢掛)	土岐輝雄	岡山	(第一岡山)	金光竹四郎	岡山
(廣島高師附屬中學)	香川豪三	廣島	(高松)	松本信一	香川
(和歌山)	西芝孝一	和歌山	(鹿兒島第二)	要鐵真	鹿兒島
(第二岡山)	野田大遙	岡山	(第一岡山)	奥山美郎	岡山
(金川)	浦松芳郎	福井	(第二岡山)	水川春生	岡山
(天理)	宮田爽美	大阪	(第三神戸)	高見司郎	兵庫
(京都第一)	小河原莞爾	岡山	(修猷館)	小郷壽一	岡山
(第一岡山)	大倉二郎	岡山	(第二岡山)	宰田岩英	岡山
(金澤第一)	伊藤綱助	石川	(青山學院)	山田忠一	神奈川
(第一岡山)	門内毅	岡山	(今宮)	生田長二郎	大阪
(第一岡山)	吉塚勤治	岡山	(成城)	鄭長群	支那

文科二年甲類二組

(四十二名)

(同志社)	龍正中	支那	(龍野)	内海繁	兵庫
(第一岡山)	三宅安衛	岡山	(第一岡山)	山本和	岡山
(第二神戸)	荒川省三	長崎	(津)	矢守徳男	三重
(第二岡山)	松岡孝	岡山	(志布志)	徳永爲雄	鹿兒島
(天王寺)	山川吉三	大阪	(福山)	井藤勳雄	廣島
(第一岡山)	摺河金磨	岡山	(京都第一)	石田英二	京都
(田邊)	原藤四郎	和歌山	(第一岡山)	石河潔	岡山
(第二神戸)	宮田豊寛	兵庫	(廣島高師附屬中學)	王堂博	廣島
(福山)	岡田良三	廣島	(日本大學中學)	吉田洋一	東京
(第一岡山)	公森俊生	岡山	(第一岡山)	青山秀夫	岡山
(第一岡山)	大水精	岡山	(關西)	奥田岩勝	岡山
(米子)	井田實	鳥取	(伊丹)	長井鐵夫	東京
(第一岡山)	小橋靜太	岡山	(岐阜)	寺町康平	岐阜
(徳島)	星合克夫	徳島			

(和歌山)	寺脇慶一	和歌山	(宮岡)	高橋勉	徳島
(第一岡山)	長門操	岡山	(長崎)	伊東祐之助	長崎
(第一神戸)	土井原拓郎	岡山	(第一岡山)	中野晴海	岡山
(丸龜)	麻野敏清	兵庫	(天城)	小野敏行	岡山
(廣島第一)	近藤博之	香川	(第一岡山)	野上智賀雄	岡山
(豊岡)	田坂正	廣島	(第二岡山)	古泉深	岡山
(北京高師附屬中學)	趙澤宗	支那	(姫路)	山本峯雄	兵庫
(關西)	谷垣明男	兵庫	(第一岡山)	佐藤五郎	岡山
(關西)	新座星男	岡山	(西條)	森康	愛媛
(關西)	森田久	岡山	(第一神戸)	武村光	兵庫
(岡山商業)	武田輝彦	岡山	(徳島)	近藤忠雄	徳島
(第二神戸)	島本庄吉	兵庫	(三重神戸)	北條四男	三重
(第一岡山)	片山巨	岡山	(高松)	宮本直	香川
(日影館)	佐々木嘉則	廣島	(第二神戸)	橋本好美	兵庫

文科二年乙類

(三十六名)

(第一岡山)	高橋觀龍	岡山	(横濱第二)	湯淺猪平	廣島
(矢掛)	原田歴二	岡山	(第二岡山)	宮内勇	岡山
(福山)	田中弘道	廣島	(第一岡山)	草野博志	岡山
(第一岡山)	露無鏡	岡山	(閑谷)	松田堅志	岡山
(修道)	高木唯夫	廣島	(八女)	正富庸治	岡山
(豊橋)	堀田連	愛知	(第一神戸)	井上重三	兵庫
(第一岡山)	大原總一郎	岡山	(第二岡山)	浦上進	岡山
(神戸)	内田滋	三重	(和歌山)	梅本縫之助	和歌山
(第一岡山)	古原勇雄	岡山	(關西)	藤本誠志	岡山
(第一岡山)	堀桂一郎	岡山	(麻布)	毛利潔	宮崎
(第二岡山)	最相公平	岡山	(第二岡山)	川合三良	岡山
(第二岡山)	岡十萬男	岡山	(第二岡山)	安本久米雄	岡山
(矢掛)	高尾謙三	岡山	(米子)	米村健	鳥取

理科二年甲類一組

(四十四名)

(第一岡山)	藤原巧	岡山	(豊岡)	野竿壽一	兵庫
--------	-----	----	------	------	----

(和歌山)	上野市三郎	和歌山	(第一岡山)	景守祐	岡山
(金光)	友田鐵雄	岡山	(第二神戸)	三浦利之	廣島
(第一岡山)	中原敏郎	岡山	(新宮)	山本達治	和歌山
(第一岡山)	戸田福三郎	岐阜	(第二神戸)	土井潔	廣島
(第三神戸)	今井怡知郎	岡山	(吳)	森加博	廣島
(豊岡)	藤尾廉三	兵庫	(第二岡山)	青木潤次	岡山
(第一岡山)	長尾大氣志	岡山	(高津)	秋山保光	岡山
(鷹町)	手束正典	徳島	(吳)	多川萬郎	廣島
(天王寺)	三木巧	大阪	(千葉)	井上修次	千葉
(今宮)	三浦義明	大阪	(閑谷)	大饗律治	岡山
(長府)	關谷敏夫	山口	(第一岡山)	近藤晴男	岡山
(第一岡山)	井坂英雄	岡山	(龍野)	杉長武夫	兵庫
(第一岡山)	吉田章憲	岡山	(福島)	永倉久三郎	福島
(第一岡山)	瀧本忠男	岡山	(第一岡山)	小橋清茂	岡山
(伊丹)	加島繁太郎	兵庫	(第二岡山)	高島三郎	岡山
(第一廣島)	淵上克巳	廣島	(天王寺)	中川關彦	三重

理科二年甲類二組

(四十三名)

(津山)	保田慶	岡山	(第二神戸)	井上雅男	兵庫
(津山)	岸彰忠	岡山	(毓文)	賀萬秀	支那
(八尾)	上田建洋	奈良	(修道)	村尾貞夫	廣島
(濱松)	有木悉太郎	岡山	(田邊)	金谷純男	和歌山
(岡山)	杉義夫	岡山	(第一岡山)	赤木幹一	岡山
(第一岡山)	宮崎義久	香川	(丸龜)	香川誠美	香川
(第一岡山)	守屋正	岡山	(第一岡山)	浦邊鎮太郎	岡山
(白杵)	兒玉豊彦	大分	(東京第三)	佐藤六次	東京
(第二岡山)	岡薫	岡山	(閑谷)	横山正夫	岡山
(徳島)	黒田隆之	徳島	(第一岡山)	重定昇	岡山
(天王寺)	竹中長治郎	和歌山	(東京第五)	石川真夫	東京
(京華)	神谷修作	東京	(高梁)	有松龍一	岡山
(今治)	野間安則	愛媛	(第一岡山)	安田稔	岡山
(矢掛)	佐藤達雄	岡山	(第二神戸)	蘆田義勇	山口

(高松) 森重夫 香川
 (桃山) 田中常三郎 大阪
 (廣島高師附屬中學) 原田克郎 廣島
 (京都第三) 竹澤德英 京都
 (天城) 三宅克治 岡山

(大連第一) 三田滿郎 靜岡
 (郡山) 北村芳美 奈良
 (天王寺) 志水清 大阪
 (撫養) 伊藤次祐 徳島

理科二年乙類

(四十一名)

(第一岡山) 國富郁夫 岡山
 (第二岡山) 渡邊正志 岡山
 (耐久) 竹内長次 和歌山
 (津山) 二木裕志 岡山
 (宮津) 坂中只一 京都
 (三太) 河村倫治郎 廣島
 (關東) 新川久良 神奈川
 (鳥取第一) 有留輝次 鳥取
 (第一岡山) 高原章夫 岡山

(東京第五) 飯岡虎雄 岩手
 (第一岡山) 浦上五六 岡山
 (金光) 佐藤信也 岡山
 (高松) 内海良貞 香川
 (天城) 福田守太 岡山
 (第一岡山) 尾崎嚴衛 岡山
 (富岡) 住吉勳 徳島
 (東京第四) 芳野俊五 東京
 (松坂商業) 久村文生 三重

文科一年甲類一組

(四十名)

(福山) 伊賀忠博 廣島
 (第二神戸) 西村完三 兵庫
 (第一岡山) 守屋誠 岡山
 (宮津) 高橋幹夫 京都
 (第一岡山) 遠藤益男 岡山
 (市岡) 一柳五郎 大阪
 (津山) 晴山昌邦 岡山
 (第二岡山) 吉岡堅二 岡山
 (天城) 三宅義夫 岡山
 (田邊) 羽山昇 和歌山
 (第一神戸) 長谷隆四郎 兵庫
 (天王寺) 長野毅 岡山
 (福山) 清峰研藏 廣島
 (京華) 中村清四郎 東京

(第二岡山) 菱木高司 千葉
 (高松) 林正憲 香川
 (第二岡山) 久山謹一 岡山
 (第二岡山) 那須操 岡山
 (第二岡山) 井上辰一郎 岡山
 (第一岡山) 吉田實 岡山
 (東京第四) 柴田清 東京
 (第一岡山) 後藤脩吉 岡山
 (明治) 小出博 兵庫
 (第一岡山) 吉田雅雄 岡山
 (京都第二) 倉橋喜弘 岡山
 (第一岡山) 横田信夫 岡山
 (三豊) 森誓夫 香川

(第一神戸)	眞下福來	京都	(東京第一)	武田西雄	大分
(關西)	大塚稔	岡山	(第一岡山)	新田鐵二	岡山
(第一岡山)	原田義人	岡山	(三豊)	田中隆造	香川
(栃木)	宇井俊一	茨城	(旅順第一)	飯河光樹	福島
(第一神戸)	豊田英一	兵庫	(第一神戸)	平木靖造	岡山
(金光)	平方代三郎	岡山	(第一神戸)	玉木立也	兵庫
(海草)	石橋英二	和歌山	(和歌山)	池田幸雄	和歌山
(天王寺)	谷口深	滋賀	(長野)	桑島昌誠	長野
(龍野)	小泉徹男	兵庫	(丸龜)	前田實	香川
(高松)	安永茂弘	愛媛	(第一岡山)	笠原彌太郎	岡山
(徳島)	鴻池忠一	徳島	(高梁)	廣田良作	岡山
(第一岡山)	黒住康男	岡山	(東京第一)	津田昇	東京
(第一岡山)	原博	岡山	(東京第一)	吉村駒雄	東京
(丸龜)	唐津志都磨	香川	(第一神戸)	日高静次	兵庫
(吳)	檜和田良太郎	廣島	(靜岡)	木内太郎	山梨
(矢掛)	土岐定一	岡山	(群山)	島村律	岡山

文科一年甲類二組

(四十一名)

(第一岡山)	小田進	岡山	(修道)	清原正明	廣島
(三豊)	山本隆義	香川	(吳)	金山司	山口
(天城)	伊達尙	岡山	(東京第一)	田中稔	東京
(麻布)	恒吉芳文	鹿兒島	(第一岡山)	石井照夫	岡山
(東京高師附屬中學)	杉野榮	廣島	(三豊)	眞鍋信義	香川
(閑谷)	加藤哲彌	岡山	(第一岡山)	窪津年太	岡山
(第一神戸)	鈴木宏	静岡	(福山)	白賀繁雄	廣島
(京華)	岡崎彰太	東京	(津山)	渡邊正利	岡山
(關西)	菅熊夫	岡山	(第二神戸)	阿波純一郎	兵庫
(豊橋第一)	鈴木貞治	愛知	(第一岡山)	丸山英一	岡山
(第一岡山)	舛永博雄	岡山	(第一岡山)	内藤祥三	岡山
(第三神戸)	村井武雄	兵庫	(津)	久保田治	岡山
(第二岡山)	虫明博	岡山	(金光)	佐々木義夫	岡山
(下關)	巻幡錦	廣島	(龍山)	中野拓二	山口

(修 道)	久保田 巧	(生 野)	堀口 忠一
(第一岡山)	根岸 順	(八 尾)	堅山 周三
(天 城)	秋山 博	(第二岡山)	石原 孝
(東京第四)	渡邊 志郎	(矢 掛)	壺田 弘
(第一岡山)	黒田 淳	(津 山)	中西 正武
(第二神戸)	山本 一雄	(廣島高師附屬中學)	岡崎 文士
(高 津)	西村 功	(平 壤)	田北 文男
(石 川)	酒井 清	(津 山)	柳井 勲
(奉 天)	張澤 津		岡山 大分
(高 松)	田淵 幸雄	(金 光)	佐藤 一徳
(横濱第一)	吉住 達一	(成 東)	石塚 大喜治
(城 東)	大谷 宏	(武 生)	山本 祝
(津 山)	後藤 博	(津 山)	仁木 晃
(高 松)	岸上 慎二	(甲 陽)	三谷 光三
			東京 岡山

文科一年乙類

(四十一名)

(大連第一)	守屋 良一	(高 松)	平野 久男
(長 崎)	吉岡 孝司	(福 山)	梅田 邦彦
(三 豊)	小西 義明	(徳 島)	國枝 健
(第一岡山)	西崎 勲	(第一神戸)	新田 勲
(兵庫蠶業)	西村 俊介	(修 道)	井上 義海
(第二岡山)	徳田 勲	(米 子)	小原 持
(第一台中)	林 鳳 麟	(東京第一)	角田 武郎
(第一神港商業)	笹尾 源吉郎	(京 城)	岡本 精
(堺)	町田 晴一	(京都第二)	柴田 進二
(矢 掛)	齋藤 護一	(嘉 穂)	守田 直
(前 橋)	松澤 豊藏	(耐 久)	法眼 晋作
(廣島第一)	藤井 壽	(西 條)	松本 三千式
(矢 掛)	高草 賢	(岩 國)	壺谷 誠
(大 社)	榮木 忠常	(北京第一)	趙 萬 斌
(第三神戸)	桐手 眞吾	(廣島高師附屬中學)	高木 暢哉
(關 西)	藤原 三郎		廣島

(第二神戸)	三好芳雄	兵庫	(第二岡山)	長谷川浩	岡山
(今治)	八木節男	愛媛	(第一岡山)	池上秀男	岡山
(大連第二)	近藤久	岡山	(五條)	岩井達	奈良
(第一岡山)	三宅三郎	岡山	(第一岡山)	和氣博	岡山
(高松)	田上稔	岡山	(東京第一)	田中浩	東京
(龍山)	山口道男	鳥取	(松江)	湯淺篤一	島根
(京北)	藤乘龍	台湾	(第一岡山)	吉村新吾	岡山
(濱松第一)	伊藤俊男	静岡	(第一岡山)	三好幸三	岡山
(伊都)	橋本字一耶	和歌山	(東京第五)	岩波常道	兵庫
(静岡)	植田和夫	静岡	(大田原)	増田八郎	栃木
(第二岡山)	堀祐	岡山	(第一岡山)	三宅貞祥	香川
(今宮)	中尾俊生	大阪	(撫養)	黒田四郎	徳島
(第一岡山)	狩谷浄太郎	岡山	(岐阜)	武知剛太郎	岡山
(第二岡山)	土居秀次	岡山	(第一岡山)	近藤洋逸	岡山

理科一年甲類三組

(四十名)

(第一岡山)	山本一耶	岡山	(第一岡山)	時實利彦	岡山
(廣島第二)	濱本博澄	廣島	(天城)	佐藤忠夫	岡山
(第一岡山)	角山良一	岡山	(第一岡山)	片岡虎雄	岡山
(聖學院)	石川由巳	東京	(豊橋)	瀧崎安次郎	愛知
(丸龜)	牧直	香川	(京都第一)	坂野威夫	岡山
(大連第一)	清田清	東京	(岩國)	佐々生真一	山口
(鳳)	阪本龍馬	大阪	(不動岡)	柴崎敏行	埼玉
(北野)	筒井清	愛媛	(龍山)	白石長幸	愛媛
(長岡)	湯本秀	新潟	(福井)	伊藤佐	福井
(府中)	前川達人	廣島	(津山)	浦上敏明	岡山
(津山)	多胡樽祐	岡山	(東京第四)	野一色義泰	鳥取
(東京第三)	石井富士雄	東京	(第一岡山)	井上幸彦	岡山
(京華)	鬼香折	福岡	(三豊)	荻田卓治郎	香川
(津山)	額田須賀夫	岡山	(大成)	井關源衛	愛媛
(淺野綜合)	西山清	東京	(郡山)	福西正男	奈良
(第一岡山)	永木儉二	愛媛	(浦和)	高橋良節	埼玉

(第二岡山)	本田文輔	岡山	(津)	谷耕一	三重
(第一岡山)	山上博	岡山	(廣島高師附屬中學)	高尾磐夫	福岡
(津山)	石黒金治	岡山	(京都第一)	河内山政男	山口
(津山)	繁定光治	岡山	(第二岡山)	柳井時正	岡山
(第一岡山)	中村眞太郎	岡山	(鳥取第一)	橋浦友義	鳥取
(第一岡山)	竹馬誠三郎	岡山	(第一岡山)	藤山杏平	岡山
(第一岡山)	難波政士	岡山	(第二岡山)	石原次文	岡山
(第二岡山)	吉田穰	岡山	(第一岡山)	國定清	岡山
(第二岡山)	齋藤克巳	岡山	(第一岡山)	石原貫一	岡山
(沼津)	山田誠	愛知	(豊中)	土井芳夫	大阪
(五條)	山縣敏昭	奈良	(徳山)	藤井敏夫	山口
(第一岡山)	松田知二	岡山	(第一岡山)	野村晋	東京
(天王寺)	鳥井諒二郎	大阪	(津山)	近光寛	岡山
(第一岡山)	片岡宏	岡山	(第一岡山)	林清五郎	岡山

理科一年乙類 (四十一名)

(檢定)	新宅哲夫	廣島	(津山)	内田義雄	岡山
(鳥取第一)	中尾浩	鳥取	(第一神戸)	森正之	岡山
(高松)	三木忠直	香川	(天王寺)	和智英夫	大阪
(矢掛)	山崎幸治	岡山	(第二岡山)	佐藤玄	岡山
(第二神戸)	花岡資三	三重	(第二岡山)	木村敏三	岡山
(平壤)	岩本榮徳	鳥取	(第二神戸)	石野重吉	兵庫
(修道)	伊木成之	廣島	(關西)	井上法彦	岡山
(徳島)	武知仁徳	徳島	(岩國)	中川勳三	廣島
(第一岡山)	難波徳男	岡山	(津山)	山谷章一	岡山
(天津)	程紹襄	支那			

九、卒業生姓名

備考

第一回ヨリ第十九回マテハ大學豫科卒業生ニシテ第二十回以降ハ高等科卒業生ナリ

氏名ノ上ノ符號解
東、京、九、東北、北海、東京、京都、九州、東北、北海道ノ各帝國大學名ニシ
テ新、岡、千、金、長、新、海、岡、山、千、葉、金、澤、長、崎ノ各官立大學名ナリ
法、文、工、理、農、醫、藥、經、獸、醫、等ハ各大學ニ於テ專攻シタル科目ヲ示
スモ
×ハ死亡ナリ

○大學豫科第一回卒業生

(明治三十六年 六月三十日卒業)

計六十名

一部 甲 (十三名)

東、法	清水益太郎	愛知	東、法	長澤一夫	兵庫	東、文	妹尾盛親	岡山
東、文	×加地歌三郎	愛媛	東、文	吉田貞一	岡山	東、法	天宅敬吉	兵庫
京、法	成瀬澄三郎	岐阜	東、文	大原保福	岡	東、文	告森	愛媛
東、法	山下三郎	廣島	京、文	小林愛雄	東京	東、文	青木	岡山
東、法	山口	魏	岡山					

一部 乙 (三名)

京、法	山本一作	兵庫	京、法	栗原	大阪	京、法	岸本良和	大阪
-----	------	----	-----	----	----	-----	------	----

二部 甲 (十五名)

京、工	博小野	正福	岡	東、工	岡崎幸人	兵庫	東、工	鷺見周保	岐阜
京、工	武藤與作	岡	東、工	圓城寺規	鳥取	東、工	松井貴太郎	大阪	
京、工	杉本徳三	京都	東、工	大飼壽太郎	岡山	東、工	市田菊次郎	滋賀	
京、工	奥富綏彦	岐阜	京、工	北村五十彦	愛知	京、工	坂本鑑四郎	岡山	
東、工	島田稻喜	高知	京、工	芳田直三	奈良	京、工	山本和七	大阪	

二部 乙 (一名)

東、藥醫×土井多四郎

三部 (二十八名)

東、醫	藏光長次郎	島根	東、醫	和田徳次郎	和歌山	京、醫	本多幸次郎	奈良
京、醫	博吉川順治	大阪	東、醫	友松佳雄	三重	京、醫	博高楠	兵庫

東、醫	丹羽元亮	三重	東、醫	池端俊雄	和歌山	東、醫	多胡雄	岡山
東、醫	岩野誠一	三重	京、醫	笠原道夫	大阪	東、醫	井上善吉	茨城
京、醫	吉永福太郎	廣島	東、醫	齋藤和策	靜岡	東、醫	佐久間泰治	愛知
東、醫	早野龍三	岐阜	京、醫	博好本	節大阪	京、醫	原優幸	一山梨
京、醫	野村久	中愛知	京、醫	竹内伊三	大阪	九、醫	望月代次	岐阜
九、醫	辻野保	和歌山	九、醫	峰須賀誠二	靜岡	九、醫	角田弘之	兵庫
九、醫	鹽見長衛	京都	九、醫	森小一	大阪	九、醫	鶴見藤太	香川
九、醫	博加藤尚義	岡山						

○第二回卒業生

(明治三十七年七月五日卒業)

計百三名

一部甲

(二十一名)

高橋文五郎	岡山	柿原政一	宮崎	東、法	×	横田誠一	岡山	
東、文	相原熊太郎	愛媛	京、法	×	松本卓爾	岡山	加計正文	廣島
京、法	森本豊治	兵庫	東、法	關屋政德	島根	京、法	藤田積造	佐賀
東、法	金万庸	次岡山	東、文	浦瀬七太郎	長崎	東、法	中院富壽	京都

京、法	山郷龜太郎	奈良	京、法	山田一	高知	東、法	御牧徳三	岡山	
京、法	石井林藏	岡山	東、文	戸部十二郎	岡山	京、法	×	重田幸吉	徳島
京、法	日笠祐太郎	岡山	佐藤鏡一	静岡	京、法	柳原達	大阪		

一部乙

(十九名)

東、法	築島信司	廣島	東、法	山本芳治	兵庫	京、法	西村甫太郎	宮崎	
東、法	望月政友	和歌山	東、法	大河内又太郎	和歌山	東、法	千葉誠一	廣島	
東、法	今福新一	廣島	京、法	木村得多	香川	東、文	瀨尾武次	廣島	
東、文	金井四郎	群馬	京、法	中上友三	福岡	京、法	川村龍雄	長野	
京、法	×	高崎秀雄	鹿兒島	京、法	清水稼太郎	岡山	京、法	小笠原顯	大阪
東、法	板野幸一	兵庫	京、法	大里興謝	福岡	東、文	春日主税	福岡	
京、法	關口親	岐阜							

二部甲

(三十名)

東、工	大口章次	岡山	京、工	那須頼太郎	岡山	京、工	永瀬連太郎	岡山
京、工	石井格一	岡山	京、工	合田松太郎	兵庫	東、工	數田春魚	岡山

京、理	河上幹次	岡山	京、工	×遠藤三武	岡山	玉島光三	廣島		
東、工	西松唯	一愛媛	京、工	×高田郁三	大阪	京、工	中村正義	岡山	
京、工	×清水惠助	岡山	京、工	安田靖一	兵庫	京、工	長谷川清治	兵庫	
京、理	鍵和田悌治	神奈川	東、工	山田彰	東京	京、工	安井直衛	廣島	
東、工	×別所泰	岡山	京、工	中井義雄	和歌山	東、工	齋藤貞一	廣島	
東、工	三野熊雄	香川	東、工	三木達治	廣島	東、工	穗積善三	愛知	
京、工	安川昇	一千葉	東、工	奈良原三次	鹿兒島	京、工	林專之助	愛媛	
東、工	上月清次	岡山	東、工	川村号	愛知	東、工	山田靜	岐阜	
東、林	加藤恂	四郎	岡山	東、農	綾田	豐香川	東、農	×青山綱成	愛知
東、林	貴島圭三	岡山	東、農	綾田	豐香川	東、農	×青山綱成	愛知	
東、醫	赤松得二	岡山	東、醫	三橋玉見	岡山	京、醫	博武田	鹿雄	高知
東、醫	小泉親彦	福井	東、醫	光本天造	廣島	京、醫	博田中文	男兵	兵庫
京、醫	平田達次	岡山	京、醫	福田康甫	山口	京、醫	土井留之助	愛知	

二部乙

(四名)

三部

(二十九名)

京、醫	加藤博之	愛知	京、醫	×有馬昇平	鹿兒島	東、醫	深澤精	四兵	兵庫
東、醫	篠原牧之助	兵庫	京、醫	水河序平	岡山	京、醫	小川六三	郎	東京
東、醫	馬淵享三	靜岡	京、醫	片山泰吉	廣島	九、醫	谷野	駿	岡山
京、醫	秋田哲千葉	京、醫	小林和三郎	廣島	京、醫	村上進	岐	早	
九、醫	佐野良太郎	秋田	九、醫	西幹敏	大阪	九、醫	×井戸	泰	岡山
九、醫	岩本護	岡山	九、醫	伊藤應隆	愛知	九、醫	守屋辰巳	岡	山
九、醫	×柴田信衛	埼玉	九、醫	黒田憲夫	廣島				

○第三回卒業生

(明治三十八年七月三日卒業)

計百六十名

一部甲

(三十一名)

東、法	次田大三郎	岡山	京、法	松原權四郎	香川	東、文	辻	盛	東京
東、法	橋本虎次郎	廣島	東、法	杉琢磨	岡山	東、法	今井田清	德	岡山
京、法	清水秀	岡山	東、文	橋本增吉	長崎	京、法	神社柳吉	岡	山
×甲斐勇雄	岡山	京、法	上野清六	新潟	東、法	佐々木志賀	二	岡	山
京、法	×森信吉	廣島	京、法	福田丈夫	山口	東、法	杉山	盈	東京

東、文	塚田芳太郎	千葉	京、法	三浦虎雄	宮崎	東、法	山田五郎	東京
京、法	×生田廣藏	鳥取	京、法	角南美貴	岡山	東、法	安藤一郎	東京
京、法	城榮太郎	兵庫	東、法	大橋信吉	岡山	東、文	岡本立彦	岡山
京、法	田中彰治	東京	京、法	松岡誠一	廣島	東、法	山岡剛	岡山
京、法	酒井岩太郎	佐賀	東、文	服部品吉	岡山	東、法	齋藤秀三	兵庫
東、法	加藤喜一	廣島						

一部乙 (二十八名)

京、法	和田駿	和歌山	東、法	×大江清太郎	岡山	東、法	×高橋三郎	東京
東、法	松岡信義	岡山	東、法	今井龜三郎	群馬	東、法	谷川浩	東京
東、法	安達房治郎	愛知		伊藤辰次郎	京都	東、法	西村禎一	岡山
京、法	岩崎信一	京都	東、法	岡村芳太郎	愛媛	東、法	×山口五三	岡山
	×下坂廣世	静岡	東、法	三澤源三郎	栃木	京、法	細野長良	富山
京、法	今井令吉	岐阜	京、法	森田恪藏	廣島	東、法	岩村通世	東京
東、法	竹内虎太	香川	東、法	犬丸巖	岡山	京、法	伍賀喜太郎	岡山
東、法	三原梓	徳島	京、法	×守安恒太郎	岡山	東、法	岡本友三	廣島

東、法 富岡久治 耶秋田 ×諸岡 隆茨城 松田幾三郎 徳島
 京、法 名越素行 廣島

二部甲 (工科) (十七名)

東、工	博宮崎	虎一	香川	東、工	田中實	東京	東、工	小室靜夫	東京
京、工	博難波	元弘	岡山	東、工	鈴木二耶	茨城	東、工	柳本直人	京都
東、工	秋田	久廣	島	京、工	若林信明	鳥取	東、工	大瀧照太郎	岡山
東、工	×柳下亮一	静岡	東、工	小山三郎	京都	東、工	勝本永二	香川	
東、工	齋藤實理	兵庫	東、工	×兒玉定次	愛知				
東、工	川井	一岐	阜	東、工	玉村滋雄	東京	東、工	林勝二	福島

二部乙 (理科) (三名)

京、工 博野田清一 耶岡山 京、理 池部季胤 岡山 東、理 博桑田義備 大阪

二部乙 (農科) (八名)

×肥瓜	美貞	兵庫	東(醫博)	木村哲二	岡山	東、農	近藤萬太郎	岡山
東、農	竹内秀雄	愛媛	東、農	×樋口千五郎	新潟	東、農	藤田豊	奈良
東、農	博山	川	東、農	米津政賢	東京			

東、藥 (舊見田丁應) 後藤政治 愛知

二部乙 (藥學科) (一名)

東、醫 伊藤正雄 廣島 京、醫博清野謙次 靜岡

(二十八名)

東、醫 春藤 蕭岡山 東、醫×森 彌三郎 香川 京、醫 野村 巖 香川

東、醫博近藤見長 岡山 京、醫 梶谷 齊 岡山 東、醫 河野建輔 千葉

京、醫 香川 傳香川 東、醫 內田一二 廣島 東、醫博松山陸郎 東京

京、醫博池田誠一大阪 九、醫 太田一也 岡山 京、醫 原田彌久 雄 岡山

京、醫博石川芳治 奈良 九、醫×野川 彬 岐阜 京、醫 渡邊八十次 新潟

×鈴木慎吾 茨城 京、醫 平野一貫 愛知 京、醫 千原 寬島 根

九、醫 赤枝守一 岡山 九、醫博入野賢二 愛知 京、醫博小津 孟 岡山

九、醫 鈴木賴衛 岡山 九、醫 酒匂龍助 鹿兒島 九、醫 神森利雄 栃木

九、醫 榊原初太郎 神奈川

○第四回卒業生

(明治三十九年七月二日卒業)

計百三十一名

一部甲

(二十七名)

東、文 栗林宇一 秋田 東、法 高崎勝文 岡山 ×長谷川 巖 靜岡

東、文 宮西甚兵衛 香川 東、文 齋藤文實 岡山 東、法 丸尾俊彦 岡山

京、文 羽溪了諦 福井 東、法 伊達四雄 和歌山 東、文 次田 潤 岡山

東、法 津田弘正 岡山 東、法 森信敬二 廣島 ×齋藤哲四郎 山形

東、文 河本修三 兵庫 東、文 中根 倫 廣島 東、文 阪部武三郎 千葉

東、法×龜山保夫 岡山 東、法 森田司樓 廣島 東、法 飯田喜藏 東京

東、法 中村藤兵衛 群馬 東、文 三井芳太郎 宮崎 東、法 尾崎庄兵衛 長野

京、法 關谷善一 東京 東、法 河村嘉一郎 佐賀 京、法 豐田著壽 香川

京、法 石田鉄雄 廣島 京、法 細川兵一 廣島 京、法×畔見又四郎 群馬

一部乙

(三十五名)

東、法 水野鷗之助 大阪 東、法 伊東祐啓 鳥取 東、法 井上秀堯 鳥取

東、文 仲榮 壽崎玉 東、法 瀧川秀雄 大分 東、法 小林一九郎 岡山

京、法	×吉田次郎	神奈川	京、法	吉田真策	廣島	東、法	辻敬三	東京
京、法	浦野義隆	大阪	東、文	岩城平之助	富山	東、法	太田吾一	靜岡
東、法	三田村富彌	岩手	東、法	澤井元善	熊本	東、法	×北島武治	東京
×杉山	茂岡山	東、法	稻山常勝	東京	東、法	今村信吉	東京	
×補元	立愛知	京、法	岡田勇次郎	京都	東、法	杉野繁	東京	
(舊室)	角倉晋造	岡山	東、法	難波良藏	香川	東、法	香西俊雄	岡山
東、法	藤堂景吉	東京	京、法	岸本銳次郎	岡山	東、文	宇野武男	岡山
東、法	眞野濟藏	和歌山	東、法	長井喜太夫	長野	東、法	田口易之	岡山
東、法	×内藤憲吉	岡山	東、法	(舊三幣) 敬三	千葉	東、法	日高明宮	崎
東、法	米田嘉一郎	京都	東、法	岡田茂登次郎	岡山	東、法	日高明宮	崎
二部 甲 (二十三名)								
東、工	馬場桑夫	香川	東、工	明石三二	岡山	東、工	米樹健次郎	新潟
東、工	高橋順一	廣島	東、工	内田嘉吉	岡山	東、工	藤岡郊二	岡山
京、工	鈴川貫一	廣島	東、工	荒木文四郎	岡山	東、工	×小藤眞治	島根
東、工	×藤田邦太郎	岡山	東、工	北島義麿	佐賀	京、工	中村誠	東京

東、工	櫻井重助	愛知	東、工	衣斐圭藏	福岡	東、工	古橋柳太郎	東京
東、工	薬師寺主計	岡山	東、工	津川掌事	廣島	京、工	鈴木順三	大阪
東、工	眞野正雄	東京	東、工	(舊垣内) 江田秀太郎	岡山	東、工	眞島寅三郎	長野
京、工	田代信嗣	東京	京、工	小村捨棉	和歌山			
二部 甲 (十四名)								
東、理	志賀深	東京	東、理	關口雷三	石川	東、理	樫田茂一	兵庫
東、獸醫	渡邊中	長野	東、林	湯淺新平	岡山	東、林	長山邑睦	愛媛
東、林	西垣晋作	奈良	東、林	門田信一	徳島	東、農	日野富三郎	愛媛
東、農博	奥田讓	東京	東、農	×奥澤雅四郎	茨城	東、農	(舊山岡) 瀨谷元利	茨城
東、農	小西龜太郎	東京	東、獸醫	田川謙吉	北海道			

三部 (三十二名)								
東、醫博	宮川米次	愛知	東、醫博	加用信憲	高知	東、醫	×蛇目將監	兵庫
東、醫博	酒井繁	東京	京、醫	(舊青木庄平) 渡邊守信	岐阜	東、醫	三戸雄輔	廣島
京、醫	×結城玄通	廣島	京、醫博	景山万治	岡山	東、醫	宮部昇	東京
京、醫	藤本理市	徳島	京、醫	松下宇太郎	徳島	九、醫	吉田章信	岡山

京、醫	西村方義山梨	京、醫	清水	顯兵庫	京、醫	博吉	馴信安香川
京、醫	森川修吾和歌山	京、醫	×帶包	定香川	九、醫	博間田亮次佐賀	
東、醫	佐藤秀太郎長野	九、醫	金尾靜衛廣島	京、醫	鷺山英一靜岡		
九、醫	志熊二郎廣島	九、醫	望月章茨城	九、醫	安達憲二新瀉		
東、醫	大河原市太郎群馬	×石田訓造廣島	東、醫	松本喜代美岡山			
九、醫	岩谷高明秋田	九、醫	尖倉綱助新潟	九、醫	藤井從橋岡山		
九、醫	長谷川大藏和歌山	九、醫	木村又八香川				

○第五回卒業生

(明治四十年六月三十日卒業)

計百三十七名

一部甲

(三十一名)

東、法	松本學岡山	東、法	藤田偵治岡山	東、法	×玉井龍島根
東、法	高草朴介岡山	東、文	法安井辰衛岡山	東、法	白根松介山口
東、法	辻重雄東京	東、文	堀江耕造靜岡	東、法	木島駒藏山口
東、文	×大野正一千葉	東、文	博四宮兼之愛知	東、法	荻野友好大阪
東、法	×高橋禎二東京	東、法	神田純一山口	東、法	大森盛太岡山

東、法	渡邊六郎東京	東、法	小田島信一郎秋田	東、文	大佛衛香川
東、法	大澤正五郎岡山	東、法	井本定祐山口	東、法	木村重樹兵庫
東、法	九鬼三郎京都	東、法	竹田隆平靜岡	×萩原四郎平靜岡	
東、法	宮本純長野	東、法	天野彦三廣島	京、法	鴨脚光康京都
東、法	大村金治岡山	東、法	岩永新太郎佐賀	東、文	小松清吉群馬
京、法	吉岡秀樹東京				

一部乙

(二十二名)

東、法	有田勉三郎山口	東、法	久埜茂鳥取	東、法	大館義一東京
東、法	高野茂基東京	東、法	土田新太郎東京	東、法	廣田定之山口
東、法	山本直太郎京都	東、法	高橋忠雄和歌山	東、法	武谷成直福岡
東、法	×室田秀松石川	東、法	三木進一郎香川	東、法	草尾可造大阪
東、法	岩崎巍福岡	東、法	×根本大助茨城	東、法	川島高富山
京、文	原真乘島根	東、法	渡邊充郎栃木	東、法	矢野爲吉愛媛
東、法	原田哲雄滋賀	東、法	榎本安盛和歌山	東、法	工藤恒義東京
東、法	長谷川宗一廣島				

二部 甲

(二十八名)

東、工	池田耐一	岡山	東、工	吉田俊之助	大阪	東、工	三川一	廣島
京、工	岸本千代吉	岡山	東、工	加藤仲二	愛知	東、工	梅田雄三	大阪
京、工	市岡萬二郎	大阪	京、工	小山柳一	長野	東、工	石川福三	廣島
京、工	深見俊三	愛知	東、工	廣瀨秀吉	廣島	東、工	石倉新十郎	群馬
京、工	森野正之	愛媛	東、工	廣瀨谷	長野	京、工	東馬三郎	岡山
京、工	小林囊一	岡山	京、工	近藤	岐阜	東、工	堀岡利一	廣島
東、工	渡邊貫三	神奈川	東、工	荒池忠吉	京都	京、工	保澤定五郎	岡山
東、工	和田信夫	静岡	東、工	佐武正一	東京	京、工	長野新十郎	岡山
京、工	手島潮大分		×田中宏三	佐賀		東、工	原伸太郎	福岡
京、工	伊藤清四郎	島根						

二部 乙

(二十二名)

東、理	堀口由巳	岐阜	東、農	鈴木英亮	茨城	東、農	×木島武衛	千葉
東、農	宇都宮清綱	廣島	東、農	芝池眞吉	大阪	東、農	可知實一	岐阜
東、理	大谷小助	山口	東、獸醫	三谷五郎	廣島	東、農	田中作次郎	京都

三部

(三十四名)

東、林	原三六	東京	東、獸醫	倉本猪三男	香川	東、醫	山田靜榮	香川
東、林	小林準一郎	群馬	東、農	西貞吉	東京	東、農	小出義男	長野
東、藥	水谷友三	新潟	東、獸醫	横屋潤	岡山	東、獸醫	青山操	廣島
東、獸醫	關莊一郎	福岡	東、獸醫	山田勝一	岡山		橋本寛三	東京
東、藥	上野周	廣島						
東、醫博	佐藤邦雄	廣島	東、醫	倉本猪三男	香川	東、醫	山田靜榮	香川
東、醫	野田孫一千	葉	東、醫	牧野融	岡山	東、醫	杉山元之助	長野
東、醫	大和田撰太郎	茨城	九、醫	小野山忠夫	福岡	京、醫	横田甫	兵庫
東、醫	佐藤敏二	岡山	京、醫	揚原守業	新潟	京、醫	飯田格	福岡
京、醫	瀬川深巖	手	京、醫	仁科啓三	岡山	京、醫	浦上孫一	岡山
東、醫	山口靜雄	愛知	東、醫	郡司修	茨城	東、醫	中川清	東京
京、醫	菅忠芳	岡山	東、醫	佐谷有吉	京都	京、醫	小川門一	岐阜
京、醫	中山佐代治	愛知	×辻野二郎	和歌山		東、醫	藤井暉	千葉
東、醫	千田要治	兵庫	九、醫	戸田滋次郎	岡山	東、醫	藤森雄平	岡山

東、醫 腹卷(舊勳六)見佐賀 九、醫 井上庸三千葉 九、醫 中原精三兵庫
 九、醫 比留間茂十郎東京 九、醫 志村太賀志山梨 九、醫 笠原精一埼玉
 ×枝松邦藏廣島

○第六回卒業生

(明治四十一年六月二十七日卒業)

計百五十三名

一部甲

(三十五名)

東、法 赤木朝治岡山 東、法 藤田大良兵庫 東、法 宮内聰太郎千葉
 東、法 天宅敬次郎兵庫 東、法 森逸二愛知 東、法 大賀幾太山口
 東、法 榎本正善鳥取 東、法 ×顯義照石川 東、法 中島彌團次高知
 東、文 岩崎孫八岡山 東、法 齋藤教慧島根 東、法 佐伯賴治島根
 東、法 西村廉岡山 東、文 ×三好安太郎岡山 東、法 坂間棟次神奈川
 東、法 岡田壽吉兵庫 東、法 榎戸泰介大阪 東、文 谷田民夫岡山
 東、文 大久保保七郎新潟 東、法 三宅富治岡山 東、法 下村重美鹿兒島
 東、法 渡邊競岡山 東、法 吉澤尙鳥取 東、法 榛葉龜太郎靜岡
 東、文 澄田福松山口 東、法 島田茂岡山 東、法 藤井喜一廣島

東、法 飯島誠一茨城 東、法 ×田波庄藏栃木 東、法 山本宗治兵庫
 東、文 藤田福太郎愛媛 東、法 光畑甚吉岡山 東、法 大西岸惠愛媛
 東、法 三好權次郎愛媛 東、法 ×山崎二郎廣島

一部丙

(三十七名)

東、法 ×池田敬勝廣島 東、法 一條久宮城 東、法 三村和義奈良
 東、法 入江魁茨城 東、法 山中恒三山口 東、法 八田照東京
 東、法 中谷貞頼高知 東、法 大橋鐵吉岡山 東、法 笈千城夫岡山
 東、法 有吉實京都 東、法 伊東禿愛知 東、文 黒田幹一岡山
 東、法 久留島新司廣島 東、法 山田信一香川 東、法 佐藤巍岡山
 東、文 佐藤直丸山形 東、法 村山惣平埼玉 東、法 田村與一(舊辰市)長野
 東、文 鷺尾祖鳳愛知 東、法 成瀬彬京都 東、法 高天房五郎奈良
 東、法 森小八郎香川 東、法 倉田庄太郎香川 東、法 濱家熊雄兵庫
 東、法 杉村茂東京 東、法 寺本喜三次福井 東、法 山田孝次郎熊本
 東、法 松岡義彦愛知 東、法 山本景藏東京 東、法 進藤林造廣島
 東、法 大政朝光愛媛 東、法 菊池武男茨城 東、法 海野普吉靜岡

東、法 柳沼保藏 福岡 東、法 瀧井文郷 福岡 東、法 土田保藏 三重
 東、法 久保田盛市郎 群馬

二部 甲

(三十一名)

東、工 ×小杉俊雄 東京 東、工 片岡敬正 東京 東、工 氏家竹之進 東京
 東、工 服部正人 山口 東、工 渡邊研六 岡山 東、工 菱川宏 東京
 東、工 富坂清 東京 東、工 竹波喜久次 岡山 東、工 博厚木勝基 東京
 東、工 野口倫八 佐賀 東、工 (舊高田) 堀越清六 岡山 東、工 横田千秋 兵庫
 東、工 長野文一 群馬 東、工 太田宏一 愛知 東、工 信原濟夫 岡山
 東、工 佐藤敏吉 愛知 東、工 桃村真一郎 新潟 東、工 小柳助治 佐賀
 東、工 高木毅 靜岡 東、工 門田傳三 愛媛 東、工 ×桐榮寛三郎 香川
 東、工 長江了一 岡山 東、工 佐々木澄夫 岡山 東、工 高田豊 廣島
 東、法 柴原龍兒 兵庫 ×若森久幹 埼玉 東、工 若林求己 廣島
 東、工 櫻井五郎 山形 東、工 森勝吉 東京 東、工 海福紀一 福井
 劉慶恩、支那(聽)

二部 乙

(十八名)

東、工 ×瀧波正勝 岡山 東、農 ×安井信清 香川 東、農 市川節治 秋田
 東、獸醫 鈴木一郎 愛知 東、理 岩村新兵庫 東京 東、農 中本保三 山口
 東、工 關谷正慶 岐阜 東、農 渡邊壽愛知 東京 東、工 福田惣次 兵庫
 東、工 堀江勝己 東京 東、農 伊藤一次 岐阜 東、獸醫 小出義彦 岡山
 東、農 竹井(舊星野) 殺 東京 東、林 久保時男 東京 東、林 一番々瀨鎮造 佐賀
 東、農 田中八郎 京都 東、獸醫 柴内保次 岩手 東、林 西尾貞治 大阪

三部

(三十二名)

東、醫 田邊文四郎 鳥取 東、醫 藤井貞廣 島 東、醫 瀧田忠雄 高知
 東、醫 高木小三郎 京都 東、醫 玉井壽千代 和歌山 東、醫 石川省三 廣島
 東、醫 草野強治 島根 東、醫 ×三宅達衛 岡山 東、醫 博多田羅止 後香川
 東、醫 山本順市 廣島 東、醫 木積一次 大阪 九、醫 齋藤干城 鳥取
 東、醫 入谷銈愛知 東、醫 東原良太 岡山 東、醫 根本豊治 茨城
 京、醫 博佐々木龜鑒 廣島 京、醫 博岩男 督大分 東、醫 中村秀雄 千葉
 京、醫 高橋誠一 島根 東、醫 千住作市 佐賀 東、醫 山田恒富 愛知
 京、醫 白井義治 埼玉 京、醫 緒方祐將 鳥取 京、醫 入野信敏 愛知

東、醫 久野義磨愛知 九、醫 山本弘行岩手 京、醫 斯林可兒雄廣島
 九、醫 鋤柄直也千葉 九、醫 掛下玉男佐賀 九、醫 星野(舊馬二)和正群馬
 九、醫 中木信仔和歌山 京、醫 澤田基次廣島

○第七回卒業生

(明治四十二年六月二十九日卒業)

計百三十二名

一、部 甲

(二十一名)

東、法 ×兒島多賀太岡山 東、法 高井清一山口 東、法 金光男岡山
 東、法 能勢(舊堀江)淡二滋賀 東、法 鈴木貫靜岡 東、法 首藤安人東京
 東、法 菊池有茨城 東、法 神鞭常泰京都 京、法 關谷衍大分
 東、法 津田猛哉東京 東、法 宮崎勝雄廣島 東、法 井關英一和歌山
 東、法 西村曉愛媛 東、法 芝築地亮次郎京都 東、法 關孝次岡山
 東、法 石井資三廣島 東、法 ×太田顯藏岡山 東、法 深井靜治岡山
 東、文 高橋謙東京 京、文 ×須川節造京都 東、法 小山美登四岡山

一部 丙

(三十一名)

東、法 大村哲太郎山口 東、法 ×伊藤信男長野 東、法 增田喜一栃木
 東、法 石塚綱正秋田 東、法 三吉悅雄山口 京、法 戸塚龍平靜岡
 京、文 秋山光夫京都 東、法 増山敏栃木 東、法 向山住年山梨
 東、法 窪田幹太岡山 東、法 千葉讓祐岩手 東、文 山本康三愛知
 東、法 大野清五郎岡山 東、法 大塚升六靜岡 東、法 ×小原讓治岡山
 京、法 榎(舊影山)昌岡山 東、法 山田秀一愛知 東、法 矢吹東馬岡山
 東、法 伊藤竹次郎滋賀 東、法 金子榮一茨城 東、文 鼓常良廣島
 東、法 豐住周五郎東京 東、法 横山昌輔山形 東、文 伊原照肅東京
 東、法 樋口佐平廣島 東、法 立川基義大分 京、法 三木百之助香川
 東、文 大本琢壽岡山 東、文 遠藤順一東京 東、法 原繁雄佐賀
 東北法文横山采米群馬

二部 甲

(二十六名)

東、工 長崎俊雄岡山 東、工 池田亮次廣島 東、工 三宅定次大阪
 東、工 原田三左衛門岡山 東、工 高木舜一岡山 東、工 笹木梢岡山
 京、工 山根幸人鳥取 東、工 大橋退治岡山 東、工 ×田坂正樹廣島

東、工	寺田勇一	東京	東、工	岩藤二郎	岡山	京、工	小田島修三	岩手
東、工	栗谷鶴二	廣島	東、工	前田雅二	兵庫	東、工	坂本登	岡山
東、工	楠田謙三	奈良	岡、醫	小林章二	廣島	東、工	小坂五九三	岡山
京、工	妹尾吉次	岡山	東、工	大野健明	愛知	京、工	武信利治	鳥取
京、工	浦川敏介	鳥取	東、工	×中村研五	東京	東、工	許	微支那
東、工	洪彦	亮支那	東、工	博爾	頌支那			
二部 乙 (二十一名)								
東、農	淺井實愛知	東、獸醫	佐田伴久	大阪	東、農	小橋清久	東京	
東、水産	宮田彌次郎	東京	東、農	佐藤達也	沖繩	東、理	江見節男	岡山
東、林	澤田修三	兵庫	東、農	長谷川敬事	東京	東、農	塚田秀男	東京
東、林	杉浦眞鉄	東京	東、藥	小柳泰三	東京	東、林	日戶政章	長野
東、獸醫	大西李彰	香川	東、林	武安雙二	山口	東、獸醫	佐藤繁雄	福島
東、農	山崎一郎	茨城	東、理	今井一郎	山形	東、藥	黄葉深造	山口
東、藥	關根重治	東京	東、農	谷垣宰次郎	兵庫	京、理	范	銳支那
三部 (三十三名)								

東、醫	坂本恒雄	廣島	東、醫博	永井一夫	德島	東、醫博	西川義英	和歌山
東、醫博	小金井良一	東京	東、醫	三角康正	東京	東、醫	縣清	一靜岡
東、醫	立花押尾	靜岡	京、醫	鈴木信義	愛知	東、醫博	飯田博	島根
東、醫	谷口二	新潟	東、醫博	穂坂與明	東京	東、醫	×高松榮三	兵庫
東、醫博	藤繩喜代藏	鳥取	京、醫	岡信一	岡山	京、醫	渡邊範介	福岡
京、醫	山本英顯	香川	九、醫	内田文秀	茨城	京、醫	井野勇	靜岡
京、醫	皆木泰一	岡山	九、醫	松浦光清	宮城	京、醫	高石信一	大阪
九、醫	森永弘	廣島	×武田	貞敏	岡山	京、醫	×多田昇太郎	岡山
京、醫	小林連	廣島	九、醫	篠川賢治	富山	京、醫	岡田清藏	新潟
九、醫	梶貞三	神奈川	九、醫	岡田章人	高知	九、醫	市川鴻一	山形
九、醫	原田吉次	鹿兒島	九、醫	吉澤莊之助	山形	九、醫	遠山理三	兵庫

○第八回卒業生

(明治四十三年七月一日卒業 内二名九月二十八日卒業)

計百五十六名

一部 甲

(二十四名)

東、法	山谷省吾	岡山	東、法	宗像久敬	東京	東、文	田坂龍雄	東京
-----	------	----	-----	------	----	-----	------	----

東、法	丸山 正雄	長野	東、法	賀屋 俊雄	山口	東、法	前田 薰一	兵庫
東、法	高橋 仰之	廣島	東、法	池田 卓一	香川	東、法	渡邊 利二郎	神奈川
東、法	小出 芳太郎	熊本	京、法	齋藤 貢	岡山	東、法	高安 禮三	茨城
東、法	高島 肇	岡山	東、法	岩城 茂	靜岡	東、法	水野 傳	岡山
東、法	田井延次郎	高知	京、法	守山 蕭	廣島	東、法	大塚 俊雄	福井
東、法	松田利夫	廣島	東、法	太田 貢	岡山	東、法	山田 敬太郎	東京
東、法	宮澤 裕	廣島	東、法	川村 昌信	兵庫	東、文	石川 佐久太郎	靜岡
東、文	中川 日史	岡山	京、法	大森 研造	香川	東、文	近成 多一	岡山
東、文	緒方 健三	福岡	京、法	遠山 勲	岐阜	東、文	水野 毅	神奈川
京、法	石黒 義郎	岡山	東、文	藤田 逸男	岡山	東、文	石川 文雄	岩手
京、法	松本 官平	香川	東、文	×安田 實	山口	京、法	等力 了	石川
東、文	坂本 稔	岡山	東、文	篠田 海洲	岐阜	京、法	岡田 性一	廣島
東、文	齋藤 茂	東京	東、文	篠田 海洲	岐阜	京、法	岡田 性一	廣島

一部乙

(十六名)

一部丙

(二十八名)

東、法	中島 重	岡山	東、法	竹井 廉	三重	東、法	根矢 庄次郎	大阪
東、法	河田 隆治	香川	東、法	中西 保則	奈良	東、法	土居 時茂	廣島
東、法	春名 喜四郎	岡山	東、法	三津川 好照	滋賀	東、法	早川 三郎	神奈川
東、法	松本 蕭	靜岡	東、法	市村 英治	和歌山	東、法	渡邊 里樹	廣島
東、法	山口榮治郎	奈良	東、法	日野 鴻藏	廣島	東、法	田島 義士	山口
東、法	若尾 英一	埼玉	東、文	内田 榮造	岡山	東、法	問原 長次郎	茨城
東、法	谷 充	三重	東、法	横田 歌次	香川	東、法	倉西 太郎	東京
東、法	市川 爲吉	茨城	東、法	明石 九一	廣島	東、法	山田 萬七	宮城
東、文	吉田 仁作	千葉	澤田 正夫	東京	東北、農	選王 大	鶴支那(聽)	
東北、農	選揚	崑支那(聽)						
二部甲								
(三十四名)								
×上野 秀吉	香川	東、工	桑原 利英	山口	東、工	横井 増治	大阪	
×平井 次郎	香川	東、工	齋藤 孝二	福岡	京、工	錢高 作太郎	大阪	
東、工	岡田 進三	兵庫	東、工	島田 貫一	東京	東、工	米村 貞雄	山口
東、工	淺間 逸男	山形	京、工	杉 宜算	愛媛	東、工	國宗 晋	岡山

東、工	唯井英隆	靜岡	東、工	林	密愛知	東、工	磯邊助一	山口
東、工	横山虎雄	埼玉	京、工	安藤昌三	香川	京、工	宮川清廣	島
東、工	藤井厚二	廣島	京、工	兒島豊作	岡山	東、工	遠藤祐三	岡山
京、工	小野道三	神奈川	東、工	江木貴一郎	岡山	京、工	權平悌三	新潟
京、工	野村淨廣	島	東、工	吉葉泰三	茨城	京、工	新野一良	愛媛
東、工	鈴木恒太郎	靜岡	京、工	大川元次	靜岡	京、工	中根伸介	廣島
東、工	徳永泰人	兵庫	東、工	久保田清	東京	京、工	岩尾行藏	廣島
東、工	池木隆	岡山						

二部乙

(二十四名)

東、農	中島	巖石川	東、水産	國枝	薄靜岡	東、農	五十嵐清治	千葉
東、農	金義	雄愛知	東、林	片山茂樹	岡山	東、水産	伊東孝一	東京
東、農	高木丑平	靜岡	東、農	飯田三郎	福島	東、農	石塚	茨城
東、林	繁澤利往	山口	東、理	大石太七	愛知	東、林	西田紀元	山口
東、林	松村	東京	東、藥	田邊	東京	東、水産	岡村治人	東京
東、理博	石原寅次郎	岡山	東、藥	田邊	東京	東、藥	篠崎憲一	東京

東、水産	西原八十八	岡山	東、林	眞崎清治	佐賀	東、獸醫	伊阪豊吉	兵庫
東、理	×國部一夫	岡山	東、理	佐藤林三	長崎	東、理	郭鴻	變支那(聽)

三部

(三十名)

京、醫	前田利實	兵庫	東、醫	清水能澄	香川	京、醫	大森城彦	岡山
京、醫	舟岡省吾	香川	東、醫	惠木卓吉	廣島	東、醫	渡邊義雄	廣島
京、醫	北條源之助	徳島	東、醫	渡邊重治	愛知	東、醫	村上功	廣島
東、醫博	谷野數之	岡山	東、醫	×太田	寧東京	京、醫	土肥順造	廣島
京、醫	飯谷孫市	岡山	東、醫	近藤喜一	岡山	京、醫	龜谷貞訓	奈良
京、醫	藤岡明香	川	東、醫	古谷義佐	山口	東、醫	小林益三	靜岡
東、醫	岡田増右衛門	愛知	九、醫	奥田喜久三	東京	九、醫	松尾廣次	兵庫
九、醫	岡本久人	廣島	九、醫	前田利道	山口	九、醫	長崎	長野
九、醫	窪田孝福	井	九、醫	新井純一	山口	九、醫	錦見慶介	岐阜
九、醫	安田祐吉	東京	九、醫	湯淺信男	徳島	九、醫	×金台	鎮朝鮮(聽)

○第九回卒業生

(明治四十四年七月一日卒業)

計百三十三名

一部 甲

(二十四名)

東、經博	(舊町田) 土方 成美 兵庫	太刀掛陣一 廣島	東、法	(舊土井原) 入江 堯二 岡山	
東、法	長安 陸五 岡山	東、法	岡野 清豪 岡山	京、法	宮本 英雄 靜岡
東、法	吉岡 堅太郎 岡山	京、法	(舊池上) 和田 孫吉 大阪	東、法	張 錚 支那
東、法	八十八川 正義 香川	東、法	石津 稟三 岡山	東、法	大原 五 岡山
東、法	×關健三 郎 奈良	東、法	石黒 琢磨 岡山	東、法	吉田 賢男 島根
東、法	鹽濱 寅一 兵庫	京、法	守分 十 岡山	東、法	三木 通三 愛媛
東、法	岩田 玉之助 和歌山	東、法	和氣 鶴太郎 東京	東、法	久松 來介 東京
東、法	大石 廣足 島根	東、法	×大平 藹一 廣島	東、法	筒井 信治 東京

一部 乙

(十四名)

東、文	石井 直三 郎 岡山	京、法	後藤 多賀雄 大分	東、文	松田 良四 郎 岡山
東、文	千輪 清海 (舊清) 岡山	京、法	渡邊 彦士 岡山	東、文	清水 俊榮 新潟
京、法	市岡 乙熊 岐阜	京、文	高橋 太愚 愛媛	京、法	矢追 進 奈良

一部 丙

(十五名)

東、文	伊東 六郎 東京	東、文	磯部 康吉 愛知	東、文	御厨 準四 郎 佐賀
東、法	島末 如水 廣島	東、文	×上遠野 長重 福島		
京、法	富海 教全 岡山	東、法	古川 鈿一 郎 福井	東、法	梶田 三 郎 京都
東、法	×山本 守一 香川	東、法	中治 武二 兵庫	東、法	樋山 良廣 奈良
東、法	安原 舜一 岡山	東、法	保科 彰 島根	東、法	×石原 繁一 廣島
東、法	松岡 峻三 靜岡	東、法	吉原 一夫 廣島	東、法	×宮武 友政 香川
東、文	伊藤 達夫 愛媛	東、法	木村 幾太 香川	東、法	八塚 英一 和歌山

二部 甲

(二十八名)

東、工	×上岡 行藏 岡山	東、工	柳澤 芳次 郎 岡山	東、工	×栗栖 久太郎 廣島
東、工	×西田 哲二 島根	京、工	片岡 盛一 廣島	九、工	阿曾 沼均 和歌山
九、工	三田 良二 兵庫	東、工	吉田 謹平 香川	東、工	黒田 修三 東京
東、工	岡 敬藏 大阪	東、工	山本 邇廣 島	東、工	齋藤 虎男 茨城
九、工	×高橋 澤衛 岐阜	東、工	渡邊 寅次 郎 山梨	九、工	蒲生 明 香川
九、工	山崎 寛二 郎 奈良	東、工	田中 胖 沖繩	東、工	野津 勝造 東京